

丹波市生涯学習に関するアンケート調査

報 告 書

令和7年3月

まちづくり部 市民活動課

目 次

1	調査概要	1
2	調査結果の概要	2
3	調査結果のまとめ	4
	A. 回答者の属性	4
	B. 個人の学習状況について	5
	C. 地域における活動について	21
	D. まなびを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える人材について ..	42
	E. その他	54

1 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は丹波市における「第2期丹波市生涯学習基本計画」の策定に向け、市民の生涯学習状況や学習意欲などに関して調査するために行ったものである。

(2) 調査の対象

丹波市に在住の満18歳以上の2,000人
住民基本台帳から無作為抽出

(3) 調査方法

- ・郵送による配布、回収（督促なし）。
- ・WEBからの回答。

(4) 調査期間

令和6年6月24日発送、同年7月12日締め切り。

(5) 調査項目

- A. 回答者の属性
- B. 個人の学習状況について
- C. 地域における活動について
- D. まなびを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える人材について
- E. その他

(6) 配布・回収状況

配布数	a	2,000
回答数※	b	703
回収率	$b \div a$	35.1%
集計対象者数		703

※回答数のうち郵送での回答数が591、WEBでの回答数が112

(7) 留意点

アンケートの設問に適切に回答をしていない場合は回答数から除外する。

2 調査結果の概要

A. 回答者の属性 問1から問6

- ・性別の回答の割合は男性が44.9%、女性が54.9%である。
- ・年代では回答の割合が多い上位3つを順に70歳代(26.8%)、60歳代(23.8%)、50歳代(13.4%)である。
- ・職業では回答の割合が多い上位3つを順に無職(26.9%)、会社員(22.3%)、専業主婦・主夫(14.2%)である。
- ・住まいでは回答の割合が多い上位3つを順に氷上(24.7%)、山南(20.3%)、春日(17.3%)である。
- ・居住年数は約7割の人が30年以上である。
- ・最終学歴は約5割の人が高校卒業である。

B. 個人の学習状況について 問7から問16

- ・仕事、健康、スポーツ、家庭生活に関連することを学習した人の割合が多く、日常生活に何らかの形で生かしていると言える。
- ・3年度分の推移を見ると、学習した成果を家庭生活や仕事に生かしている人が増加傾向である。
- ・学習に関する情報について、約4割の人が「家族や友人、知人からの口コミ」や「新聞・雑誌」などから情報を得ている。昨今では「webページ」や「SNS」といったオンラインの媒体から情報を得ている人の割合が多くなっている。
- ・学習をしていない理由に約4割の人が「仕事が忙しい」や「学習する必要性を感じていない」と回答した。
- ・3年度分の推移を見ると、「学習する必要性を感じていない」人が大幅に増加している。
- ・市の学習に関する情報提供について、不満よりも満足と回答した人の割合の方が僅かに多い。
- ・生涯学習や社会教育のために1年間で利用したことがある施設では、約4割の人が「自治会の公民館・集会所」を利用している。
- ・市主催の生涯学習に関するイベントや講座に参加したことがある人の割合は1割にも満たない。
- ・学習を進めるにあたって、約6割の人が「学習講座やイベント情報のわかりやすい情報発信」を求めた。
- ・約5割の人が「生涯学習」という言葉に対して「大人の学び」を表す言葉として親しみを感じている。

C. 地域における活動について 問17から問23

- ・約4割の人が「大人やこどもが共にまなび、育つことができる地域」になっていないと回答した。
- ・地域課題では、約3割の人が「高齢者の生活支援の充実」、「地域の担い手不足解消」、「子育て支援の充実」が課題だと回答した。
- ・健康やスポーツというキーワードに関連して、地域の中の活動では約4割強の人が「健康づくり・スポーツなどの体を動かす活動」に参加してみたいと回答した。
- ・約6割の人が今後、生涯学習を通じて学んだことや経験を仕事や地域活動に生かしたいと思っている。また、そのために約5割の人が「専門的な学習内容の充実」、「学習内容を共有する機会や場の提供」、「活動のアドバイス・サポートをしてくれる仕組み」が必要だと答えた。
- ・約6割の人が生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を仕事や地域活動に生かしたいと思わない理由として、「自己の楽しみが目的だから」、「知識・技術が未熟だから」、「人間関係が煩わしい」と回答した。

D. まなびを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える人材について 問24から問26

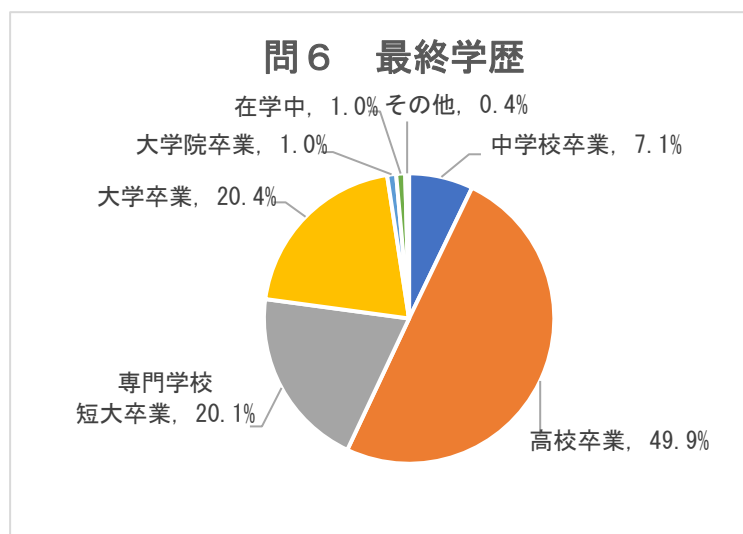
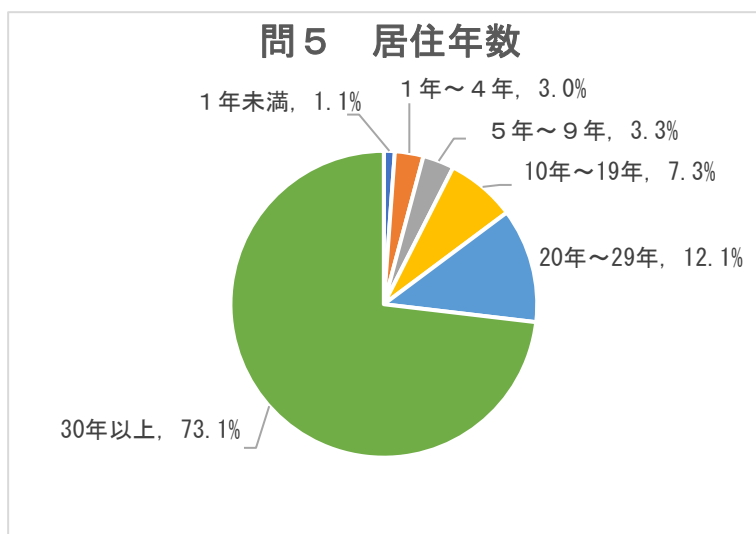
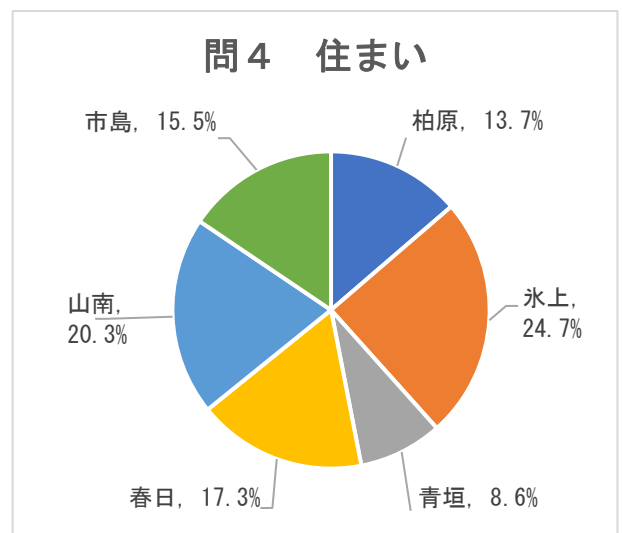
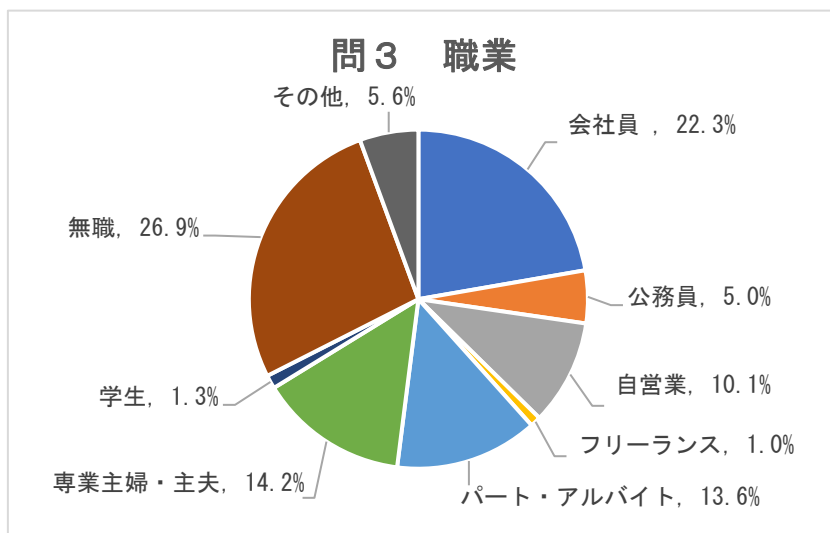
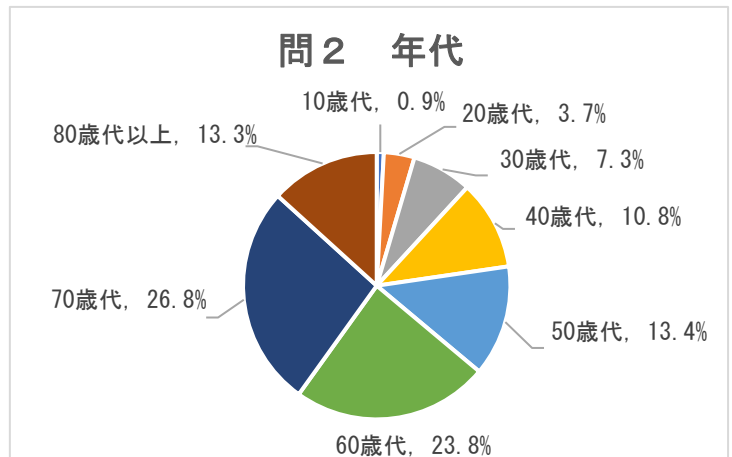
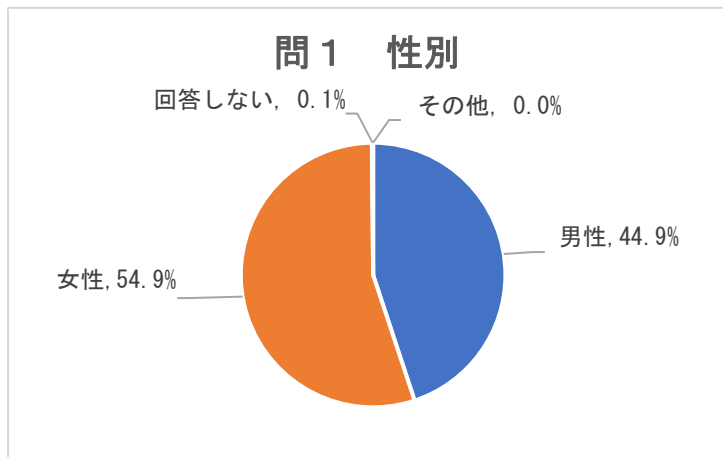
- ・まなびを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を推進していくために、約6割の人が「人と人をつなぐコーディネーター人材」が必要だと回答した。
- ・生涯学習を推進する社会教育人材やコーディネーター人材を増やすために、6割以上の人が「研修会や講座事業による人材育成」、5割以上の人が「学びの場をつくる人材の育成」、「社会教育人材やコーディネーター人材の活躍の場をつくる」が必要だと回答した。

E. その他 問27から問36

- ・「ウェルビーイング」、「こどもまんなか社会」、「共生社会」の3つの言葉の中で最も認知度が高い言葉は「共生社会」である。また、8割以上の人がそれらの言葉をテーマにした講座やイベントに参加したことがないと回答した。

3 調査結果のまとめ

A. 回答者の属性



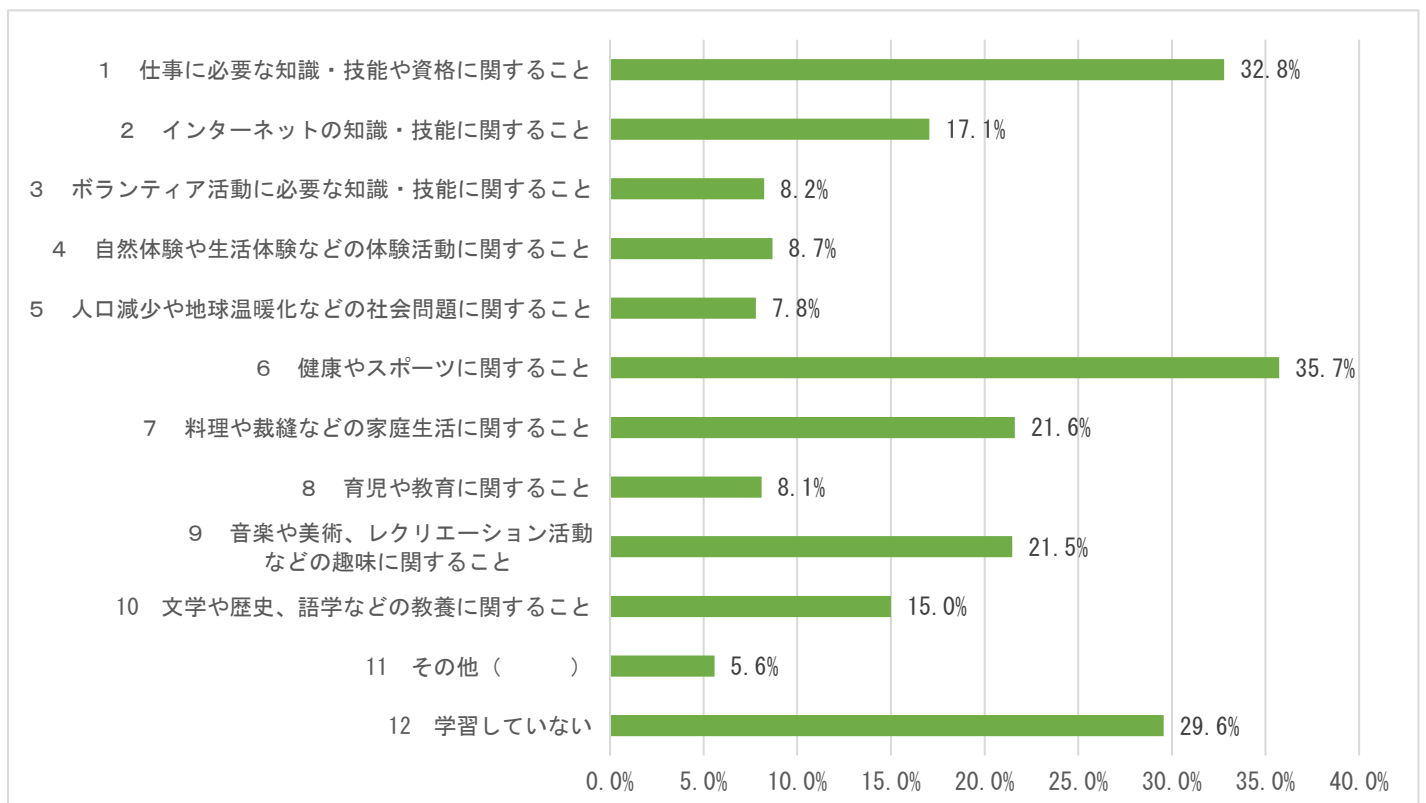
B. 個人の学習状況について

問7 あなたはこの1年くらいの間に、月に1日以上どのようなことを学習しましたか。
特にあてはまるものを3つ選んで番号をご記入ください。

有効回答数 680

回答の割合が多い上位3項目を順に「6 健康やスポーツに関すること」が35.7%、「1 仕事に必要な知識・技能や資格に関すること」が32.8%、「12 学習していない」が29.6%である。

また、「12 学習していない」を除くと、上位2項目の次に回答の割合が多いのは「7 料理や裁縫などの家庭生活に関すること」が21.6%である。アンケートを実施した期間から遡って1年くらいの間に日常生活に関連することを学習している人が多いことがわかる。



以下、その他の回答になります。※原文のまま掲載しています。

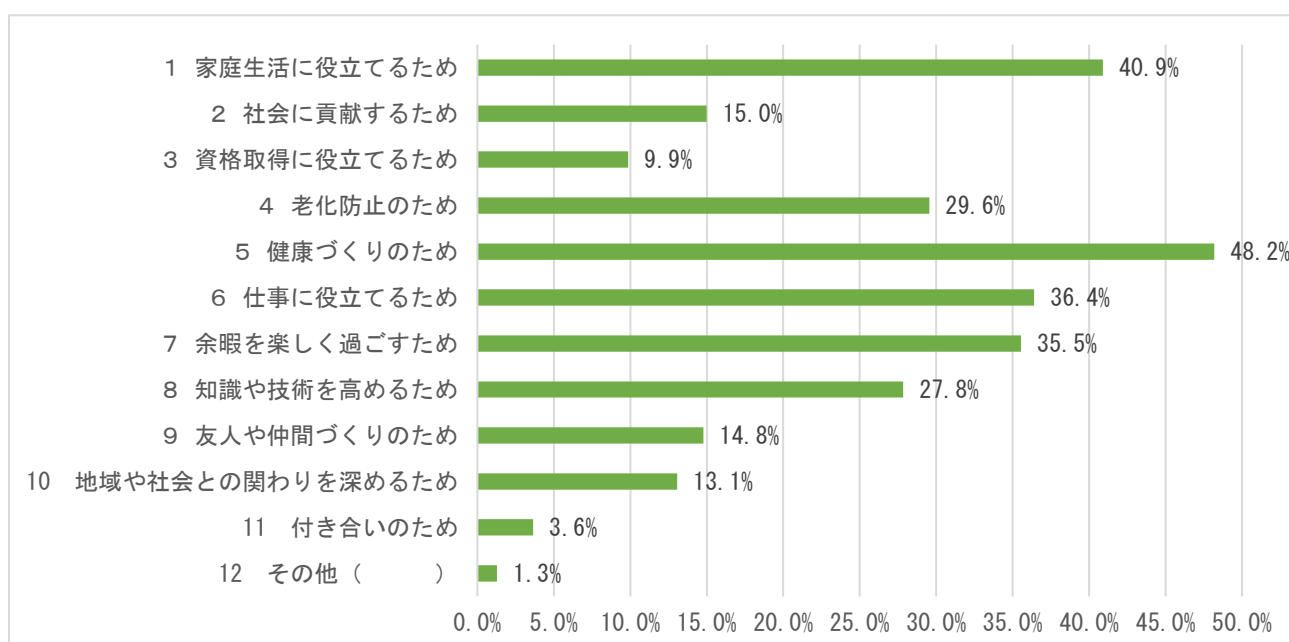
年代	性別	回答
10 代	男性	丹波市のあり方
		国際政治
40 代	男性	金融
		地域の担い手について
50 代	男性	資産運用に関すること
		農業
	女性	認知症に関すること
60 代	男性	農業に関すること
		ゴルフ
	女性	携帯電話で脳トレ
70 代	男性	資産運用
		宗教思想
		農業
	女性	宗教的なこと
		一つのサークルに入ってその中で人との和、野菜作り、人の道を教えてもらっている。
80 代 以上	男性	古文書
	女性	教えてもらった折り鶴作成

[問7で1から11を選択された方にお聞きします。]

**問8 あなたは学習した成果をどのように生かしていますか。
特にあてはまるものを3つ選んで番号をご記入ください。**

有効回答数 467

前問で回答の割合が最も多かった項目「6 健康やスポーツに関すること」に連動するように、問8では「5 健康づくりのため」の回答の割合が最も多く48.2%である。続いて「1 家庭生活に役立てるため」が40.9%、「6 仕事に役立てるため」が36.4%である。学習した成果を日常生活に何らかの形で生かしている傾向がある。



以下、その他の回答になります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	回答
50 代	男性	農業
60 代	男性	精神的充実のため。
		これからの世界がどうなるか考えるため。
80 代以上	女性	孫のためになるように（ひ孫）

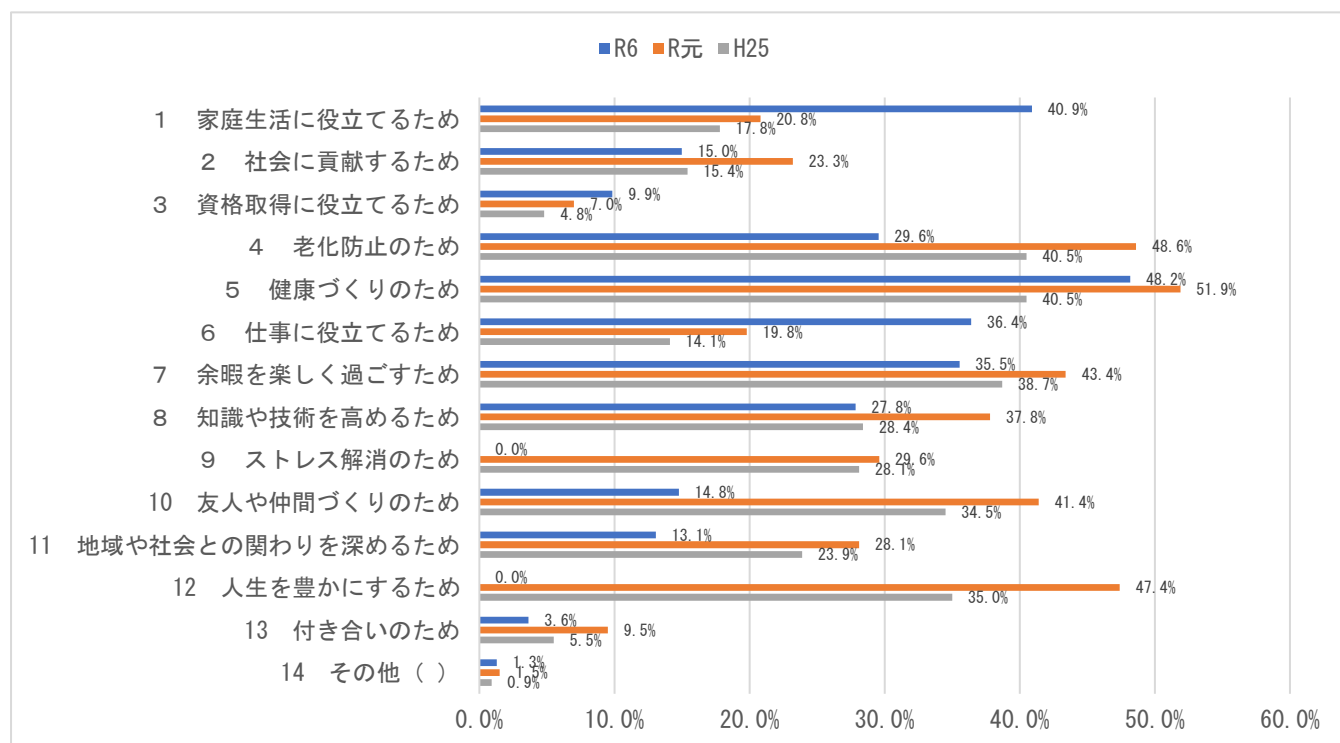
**補足：「あなたは学習した成果をどのように生かしていますか」3年度分
まとめ**

3年度分のアンケート回答者数と設問の有効回答数

- ・平成25年度アンケート回答者数：935 設問の有効回答数：566
- ・令和元年度アンケート回答者数：737 設問の有効回答数：399
- ・令和6年度アンケート回答者数：703 設問の有効回答数：467

平成25年度から「1 家庭生活に役立てるため」、「3 資格取得に役立てるため」、「6 仕事に役立てるため」の3項目の回答の割合は増加傾向である。他の項目では増減を繰り返して推移している。

また、令和元年度と令和6年度の回答の割合を比較して、「1 家庭生活に役立てるため」は20.1ポイントの増加、「6 仕事に役立てるため」は16.6ポイントの増加となっている。平成25年度のアンケートの回答条件と異なるものの、学習した成果を家庭生活や仕事に対して生かしている人の割合は増加傾向にある。



※H25とR1では「あてはまるものを全て選択」という条件で調査を実施している。

※R6では「9 ストレス解消のため」「12 人生を豊かにするため」の回答項目は廃止している。

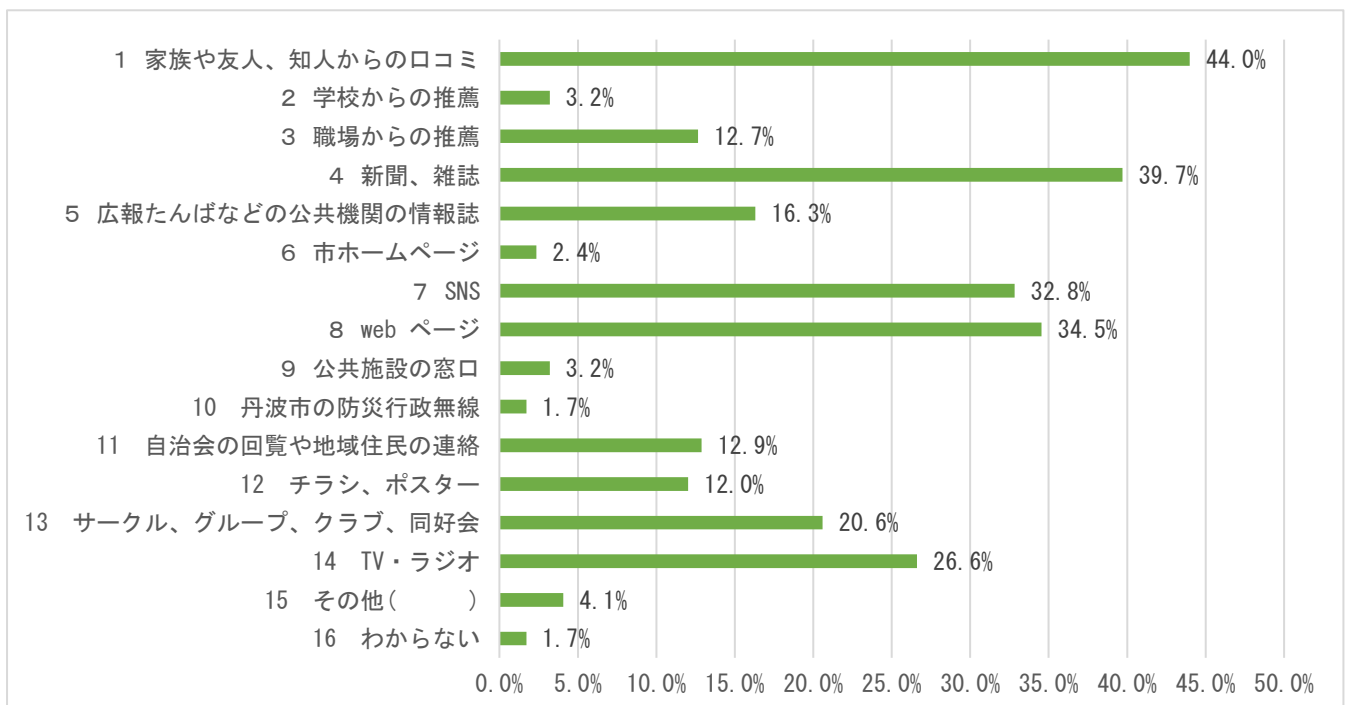
[問7で1から11を選択された方にお聞きします。]

**問9 あなたは学習に関する情報をどこから得ていますか。
特にあてはまるものを3つ選んで番号をご記入ください。**

有効回答数 466

回答の割合が多い上位3項目を順に「1 家族や友人、知人からの口コミ」が44.0%、「4 新聞、雑誌」が39.7%、「8 web ページ」が34.5%である。

回答の割合の多かった上位3項目に続いて「7 SNS」が32.8%である。「8 web ページ」を含め、オンラインで情報を取得している人の割合が多いということがわかる。



以下、その他の回答になります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	回答
10 代	男性	大学
40 代	男性	本屋
50 代	男性	田んぼ
60 代	男性	本
		本屋
		専門書籍など
		本等
	女性	書籍
70 代	男性	自治振興会活動から

[問7で12「学習していない」を選択された方にお聞きします。]

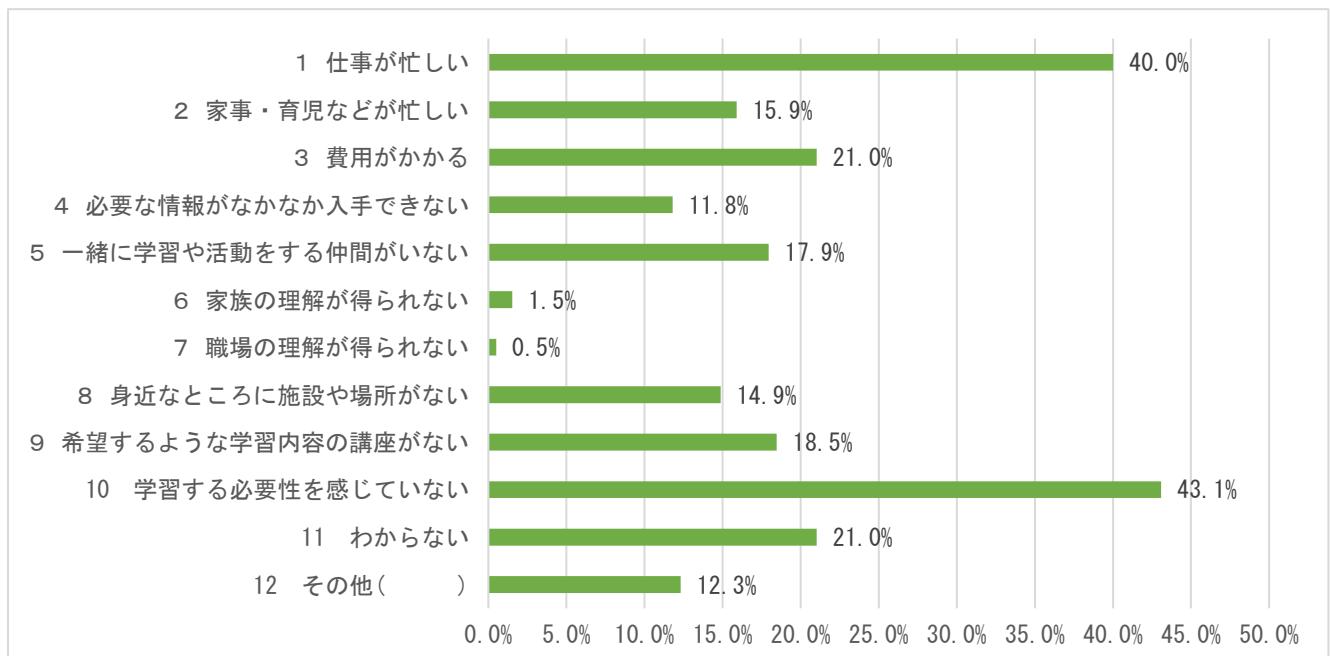
問10 あなたが学習をしていない理由は何ですか。

特にあてはまるものを3つ選んで番号をご記入ください。

有効回答数 195

問7の有効回答数680に対して、約3割の人が「学習していない」と回答した。

回答の割合が多い上位3項目を順に「10 学習する必要性を感じていない」が43.1%、「1 仕事が忙しい」が40.0%、「3 費用がかかる」と「11 わからない」が同じく21.0%である。



以下、その他の回答になります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	回答
40 代	女性	身に付けた知識と必要なマッチング
60 代	男性	生涯学習があることを知らない。
		年がいったるため、必要ない。
	女性	介護（義母が自宅で寝たきり）
		高齢のため。
		病気療養中のため。
70 代	男性	意欲がわからない。
		高齢のため、意欲がない。
	女性	病気で入院
		主人を介護していた。学習しようという気になれなかった。
		場所が分からない、移動手段がない。
		高齢者になり、車の運転で遠出困難
		健康
80 代 以上	男性	体調
		高齢になり出るのが出られない。
	女性	入院中
		高齢で一人暮らし。
回答なし		病気のため。

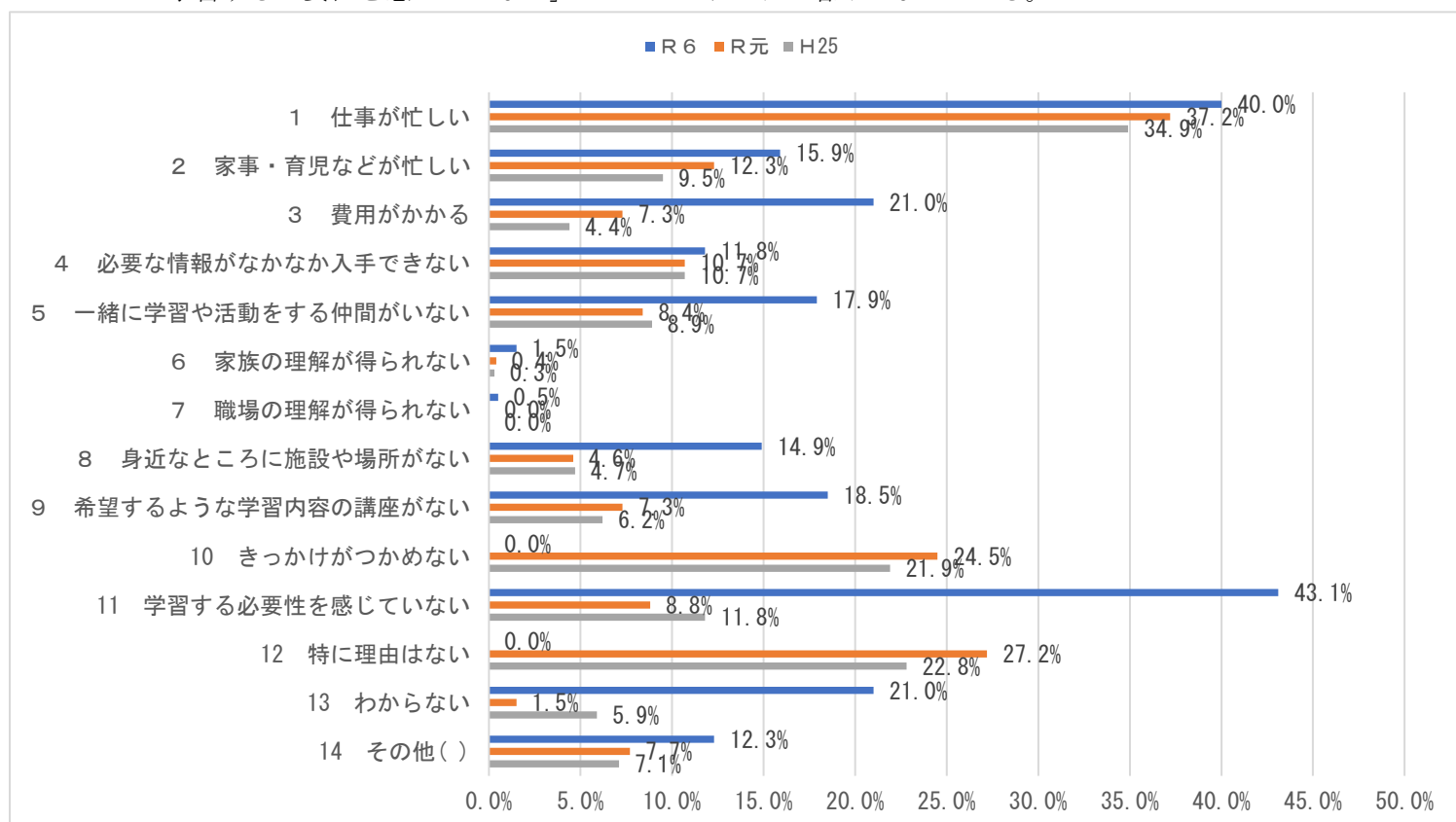
補足：「あなたが生涯学習を行っていない理由」 3年度分まとめ

3年度分のアンケート回答者数と設問の有効回答数

- ・平成 25 年度アンケート回答者数：935 設問の有効回答数：338
- ・令和元年度アンケート回答者数：737 設問の有効回答数：261
- ・令和 6 年度アンケート回答者数：703 設問の有効回答数：195

回答の割合を見てみると、ほぼすべての項目で横ばいもしくは増加で推移している。しかし、平成 25 年度から令和 6 年度にかけてアンケートの回答者数と設問の有効回答数がどちらも減少している。

令和元年度と令和 6 年度の回答の割合を比較すると、5つの項目でポイントが増加している。「3 費用がかかる」は 13.7 ポイントの増加、「5 一緒に学習や活動をする仲間がいない」は 9.5 ポイントの増加、「8 身近なところに施設や場所がない」は 10.3 ポイントの増加、「9 希望するような学習内容の講座がない」は 11.2 ポイントの増加、「11 学習する必要性を感じていない」が 34.3 ポイントの増加となっている。



※「11 学習する必要性を感じていない」はH25、R1の調査では「特に学習を望んでいない」という回答項目になっている。

※H25とR1では「あてはまるものを全て選択」という条件で調査を実施している。

※R6では「10 きっかけがつかめない」「12 特に理由はない」の回答項目は廃止している。

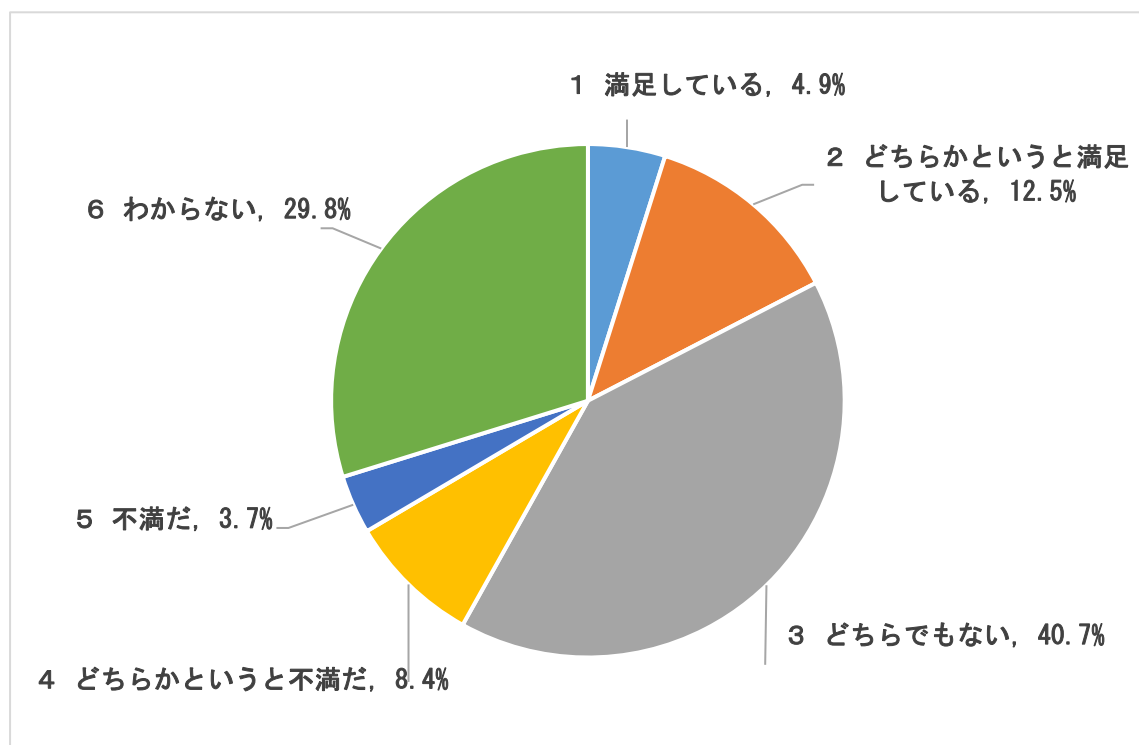
〔すべての方にお聞きします。〕

問 11 丹波市の学習に関する情報提供に満足していますか。

有効回答数 678

回答の割合が多い上位3項目を順に「3 どちらでもない」が40.7%、「6 わからない」が29.8%、「2 どちらかという満足している」が12.5%である。

丹波市の学習に関する情報提供において、「4 どちらかという不満だ」もしくは「5 不満だ」といった不満と思っている人の割合よりも、「1 満足している」もしくは「2 どちらかという満足している」といった満足している人の割合の方が僅かに多いことがわかる。



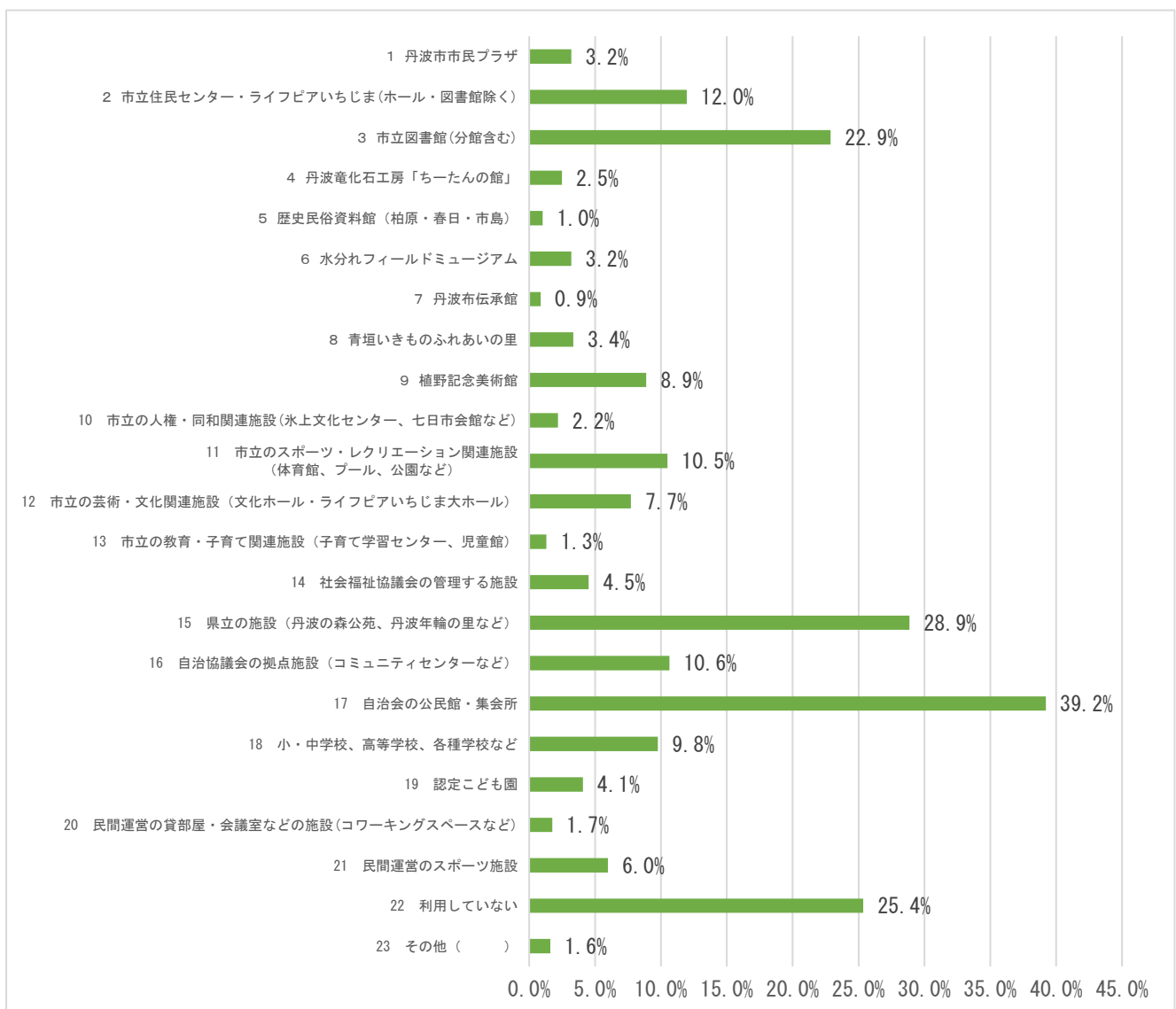
〔すべての方にお聞きします。〕

**問 12 あなたがこの一年間で利用したことがある施設はどれですか。
利用頻度の高いものから3つ選んで番号をご記入ください。**

有効回答数 686

回答の割合が多い上位3項目を順に「17 自治会の公民館・集会場」が39.2%、「県立の施設（丹波の森公苑、丹波年輪の里など）」が28.9%、「22 利用していない」が25.4%である。

また、「22 利用していない」を除くと、上位2項目の次に回答の割合が多かったのは「3 市立図書館（分館含む）」の22.9%である。



以下、その他の回答になります。※原文のまま掲載しています。

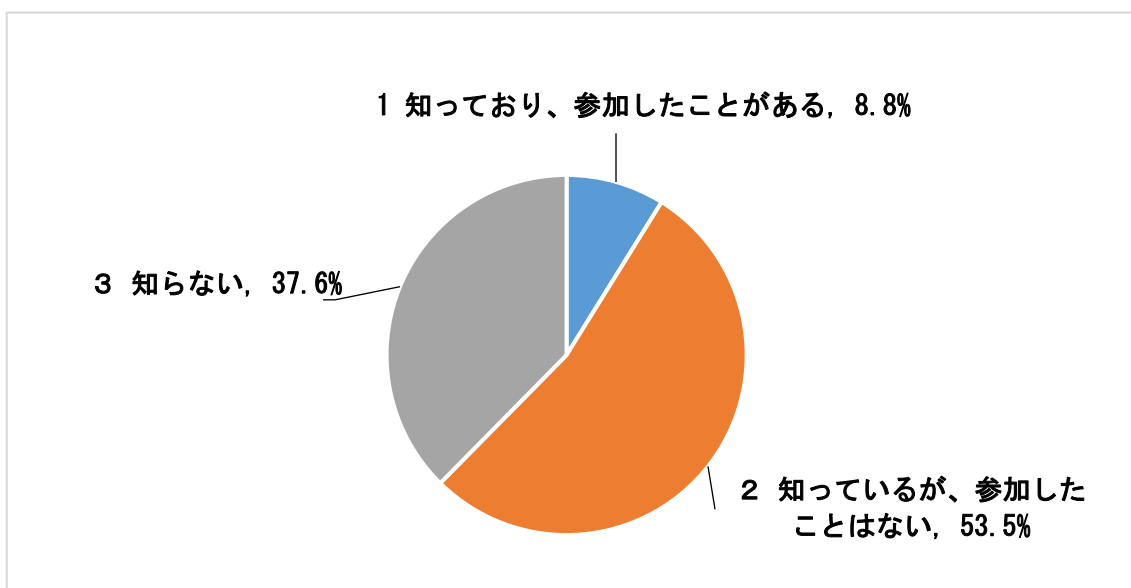
性別	性別	回答
30 代	女性	こうがやま児童館
50 代	女性	介護
60 代	男性	自分です。
		道の駅おばあちゃんの里
	女性	入院中
		病気療養中のため。
80 代	男性	近くの自治会の活動には参加する。
以上	女性	月一回以内の学習

〔すべての方にお聞きします。〕

**問 13 あなたは市主催の生涯学習に関する講座やイベントを知っていますか。
また、参加されたことがありますか。**

有効回答数 678

市主催の生涯学習に関する講座やイベントについて、有効回答数に対して5割以上の人が「2 知っているが、参加したことはない」と回答している。「2 知っているが、参加したことはない」と「3 知らない」と回答した人の割合は有効回答数に対して約9割である。



〔問 13 で 1 「知っており、参加したことがある」に○をつけた方にお聞きします。〕

問 14 参加された講座やイベントを教えてください。

以下、記述のまとめになります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	意見
10 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
20 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
30 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
40 代	男性	8050 問題について
	女性	自己肯定感を高める子育て
50 代	男性	松村智広さんの人権講座
	女性	・ かなり前のことで忘れた。 ・ 年越し「そば打ち教室」、つるのかご作り講習会、ふれあいまつり ・ いろいろ行って、覚えていない。 ・ 剪定教室
60 代	男性	・ 人権学習会 ・ 田ステ女創建の禅寺を継ぐ ・ 社会福祉協議会主催福祉学習会
	女性	・ 体操 ・ 丹波布のファッションショー ・ 丹波市社会福祉協議会主催 R6. 2. 28 (水) みんなで考える地域の見守り R6. 3. 9 (土) 社協ふくしまつり 午前の部 信友直子さん ・ シニアカレッジ
70 代	男性	・ 市の主催かどうか判別出来ない ・ 生涯学習 やまなみ大学 ・ 丹波市、神戸大学 頭と体のための健康教室 ・ 丹波市の行う歴史講座など

	女性	・ 認知症の映画会、午後の公演会 ・ オオムラサキチョウ放蝶会 ・ 総合文化祭 ・ シニアカレッジ ・ いきいき体操 ・ 3 B体操 ・ O B大学 ・ 週一回の健康教室、頭と体の健康教室 ・ 家の中の安全を考えよう。特殊詐欺被害にあわない為の注意 ・ 童謡教室 童謡唱歌の祭典 ・ 春日さわやか学級 ・ エコークッキング ・ ゆうゆうカフェ ・ まなびのマスター⇄丹波まなびのマルシェ 氷上文化センターで開催された美味しいコーヒーの淹れ方 ・ 丹波の歴史 ・ ヨガ ・ 自治会主催のサロン ・ 料理講座 ・ たんばO B大学
80 代 以上	男性	・ 筋トレ講座 ・ O B大学 ・ 丹波学
	女性	・ シニアカレッジ ・ おせっかいマスター

〔すべての方にお聞きします。〕

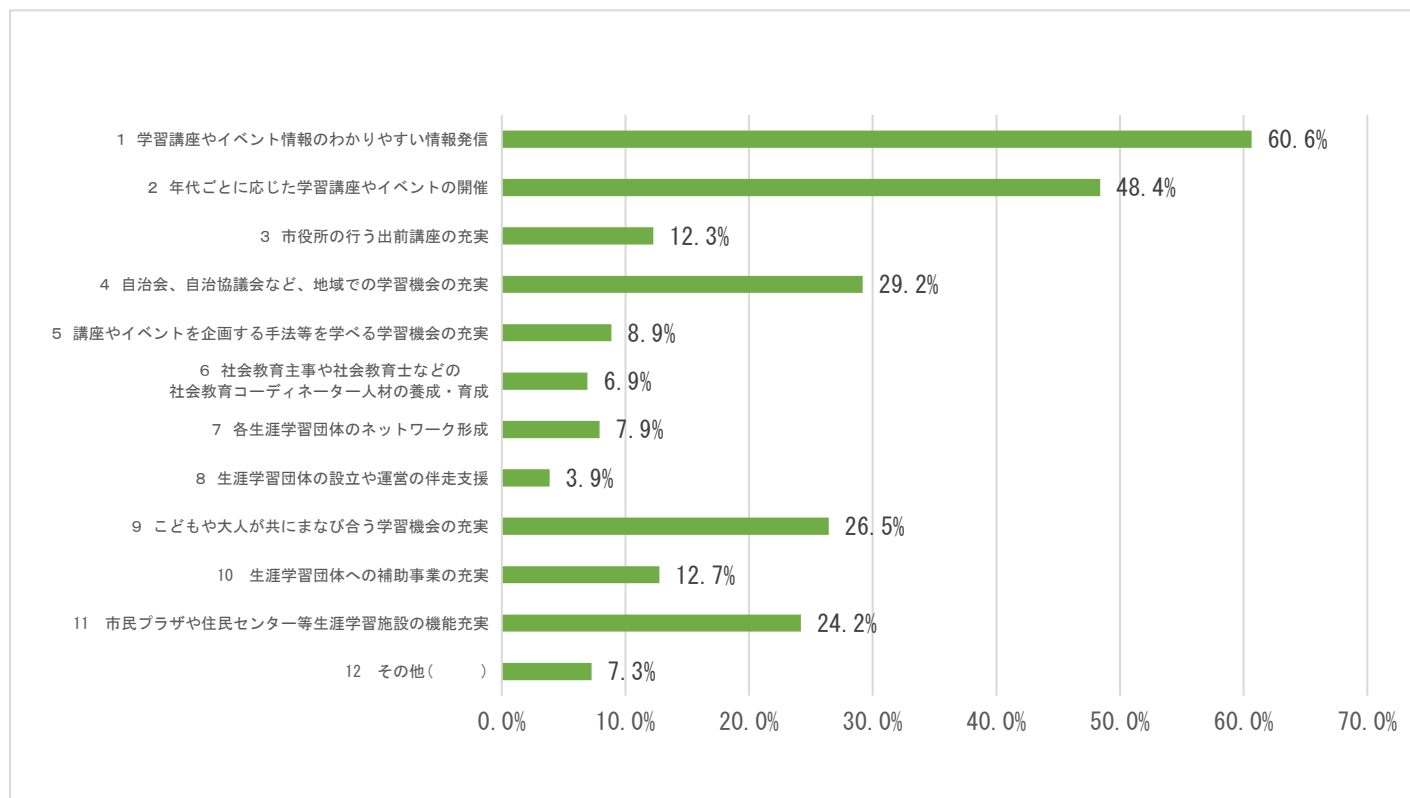
問 15 あなたが今後、学習を進めるにあたって、丹波市に求めることを教えてください。

特にあてはまるものを3つ選んで番号をご記入ください。

有効回答数 620

回答の割合が多い上位3項目を順に「1 学習講座やイベント情報のわかりやすい情報発信」が60.6%、「2 年代ごとに応じた学習講座やイベントの開催」が48.4%、「4 自治会、自治協議会など、地域での学習機会の充実」が29.2%である。

また、回答の割合が多い上位3項目以外にも「4 自治会、自治協議会など、地域での学習機会の充実」が29.2%、「9 こどもや大人が共にまなび合う学習機会の充実」が26.5%、「11 市民プラザや住民センター等生涯学習施設の機能充実」が24.2%となっている。



以下、その他の回答になります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	回答
30 代	女性	子ども大人関係なく人として生きやすい町づくりの学習
40 代	女性	本屋（店） 魅力的な講座
50 代	男性	求めない。学習は自分でやるものだと思う。それをするなら 20～30 代までの人達にチャンスを与えてほしい。
	女性	平日に行けないことが多いので最初からあきらめている。土日開催のものを増やしてほしい。 参加しやすい交通支援、各自治会集会所などに送迎車が来てもらおうと参加してみようとなるかも。
60 代	男性	税務申告の知識の機会 特にない。 時間があわない。 インターネットを通して発信
	女性	全て知りたい。 マンネリ、ほかにはないものを考えてほしい。
70 代	男性	書籍 高齢者でも気軽に参加できる学習機会 特に無し。
	女性	土日、仕事をしている人や、高齢者に優しさが無い。
80 代	男性	高齢者組織（地域の老人会など）の組織応援
以上	女性	百歳体操以外は外出しない。 別にない。 分からない。
回答なし		みんなで楽しめること。

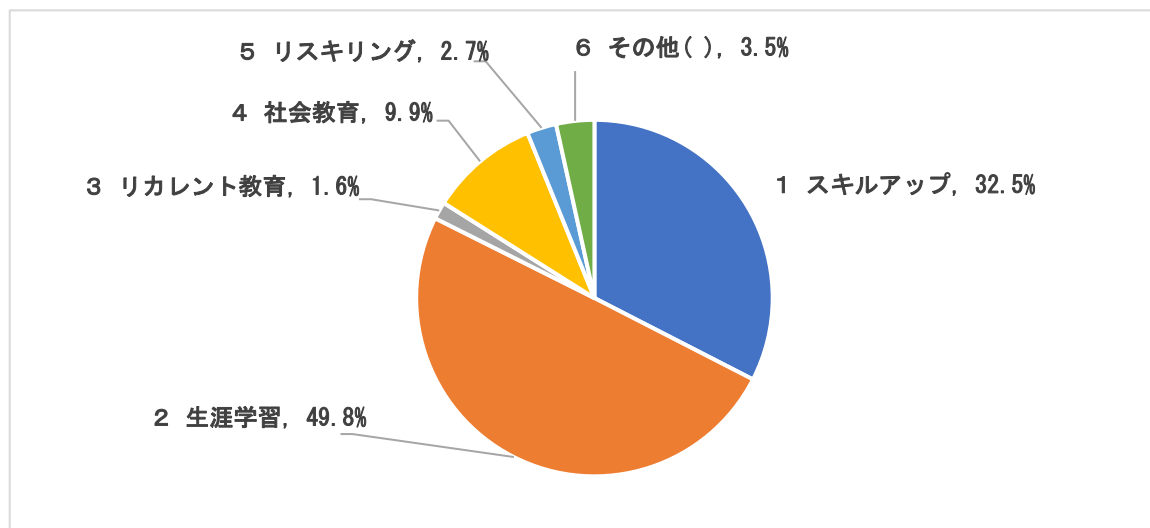
問 16 あなたが「大人の学び」を表す言葉として、最も親しみを感じるものを教えてください。
あてはまるひとつに○

有効回答数 640

回答の割合が多い上位 3 項目を順に「2 生涯学習」が 49.8%、「1 スキルアップ」が 32.5%、「4 社会教育」が 9.9%である。特に「2 生涯学習」は本アンケートの題目でもあるように聞きなじみがあり、有効回答数に対して約 5 割の人が回答している。

「1 スキルアップ」と「2 生涯学習」は「大人の学び」を表す言葉として親しみを感じる言葉だと言える。

一方で「3 リカレント教育」が 1.6%、「5 リスキリング」が 2.7であり、この 2 つの言葉はあまり浸透していないことがわかる。



以下、その他の回答になります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	回答
40 代	女性	大人の学びでいいと思う。
50 代	男性	何も感じない。
60 代	男性	ひまつぶし
		なし
		自由でいたい。
70 代	男性	「学習」の言葉が難しすぎる、参加しづらい雰囲気がある。
	女性	学習、教育とは考えていない。
		横文字ではわからない。
		カレッジ

C. 地域における活動について

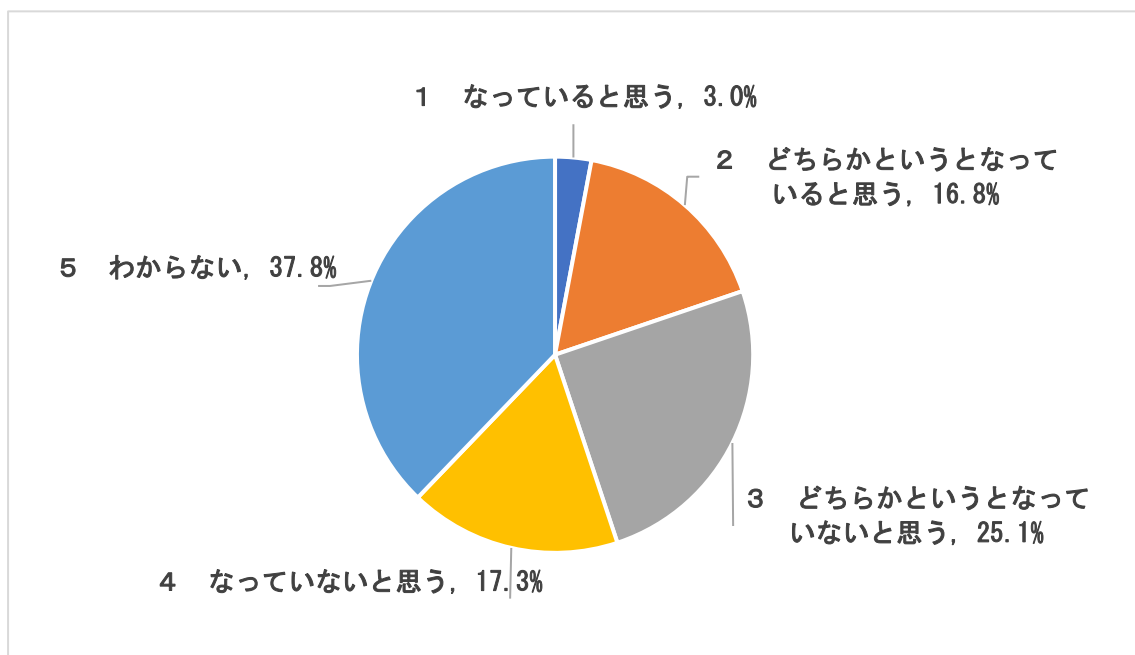
問 17 大人や子どもが共にまなび、育つことができる地域になっていると思いますか。

あてはまるひとつに○

有効回答数 677

回答の割合が多かった上位3項目を順に「5 わからない」が37.8%、「3 どちらかというとなっていないと思う」が25.1%、「4 なっていないと思う」が17.3%である。

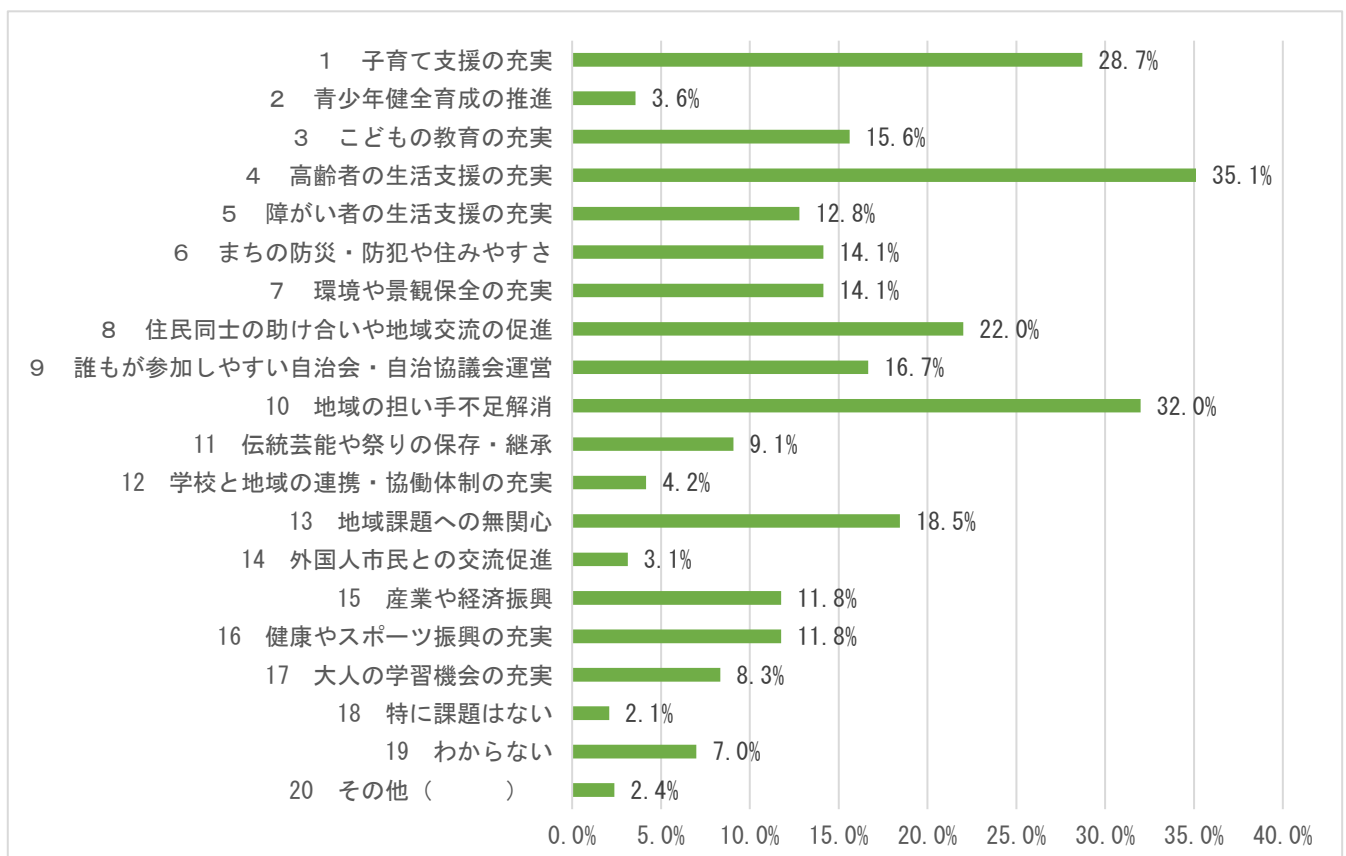
大人や子どもが共にまなび、育つことができる地域に「1 なっていると思う」もしくは「2 どちらかというとなっていると思う」と感じている人の割合よりも、「3 どちらかというとなっていないと思う」もしくは「4 なっていないと思う」と感じている人の割合の方が多いことがわかる。



**問 18 あなたは、地域にどのような課題があると考えていますか。
特に重要だと思うものを3つ選んで番号をご記入ください。**

有効回答数 672

回答の割合が多い上位3項目を順に「4 高齢者の生活支援の充実」が35.1%、「10 地域の担い手不足解消」が32.0%、「1 子育て支援の充実」が28.7%である。回答の割合が多い上位3項目以外にも「8 住民同士の助け合いや地域交流の促進」や「13 地域課題への無関心」などが一定割合を占めており、地域には数多くの課題があることがわかる。



以下、その他の回答になります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	回答
10 代	男性	高所得・安全・健全で社会貢献度の高い職場がない。
20 代	女性	高齢者の共同住宅
		老人にお金をかけすぎではないかと思う、もう少し子どもを育てるためにお金を確保するべきだと思う。
60 代	男性	少子化
	女性	病気療養中につき参加できていないからわからない。 役員の仕事が多すぎる。
70 代	女性	移住者と地域との関係
		少子化と高齢者ばかり

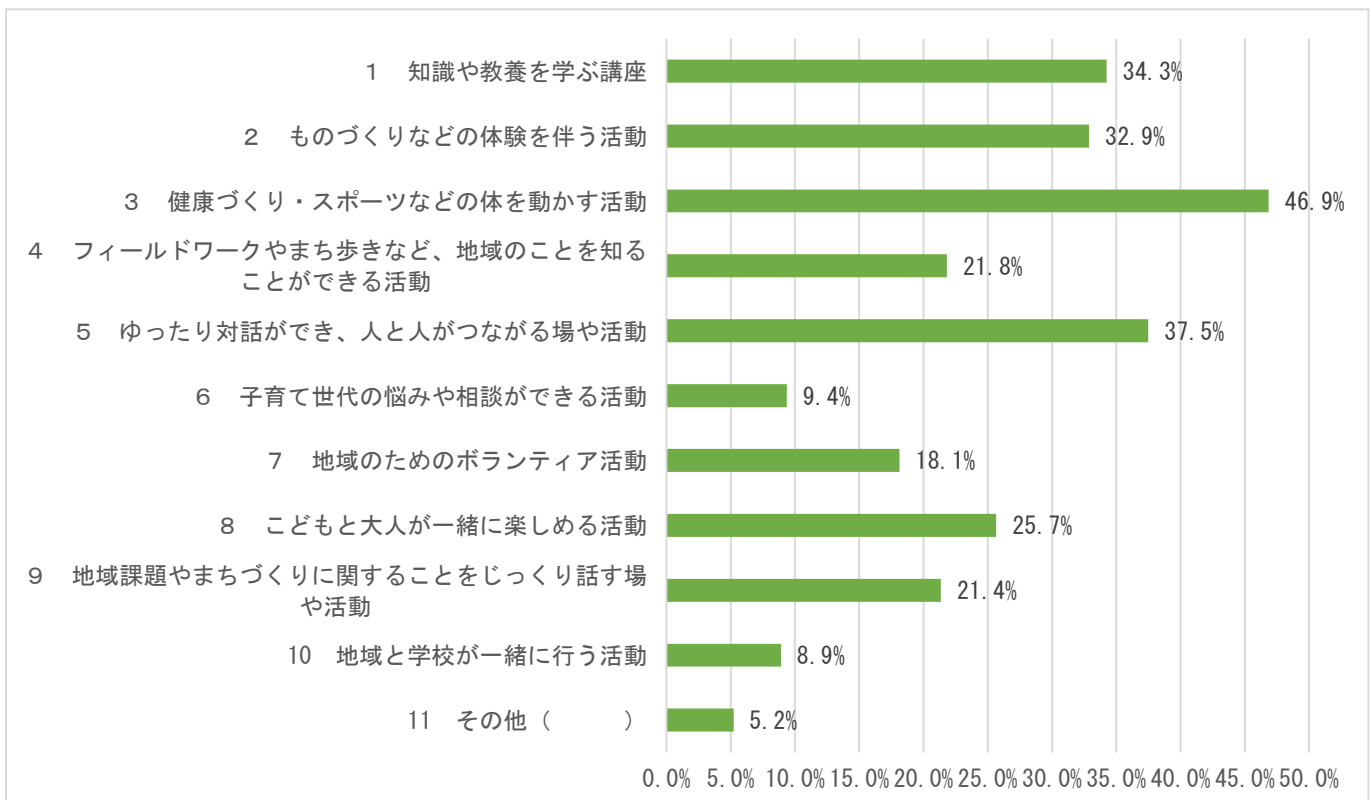
**問 19 あなたは、地域の中でどのような活動に参加してみたいと思いますか。
特にあてはまるものを3つ選んで番号をご記入ください。**

有効回答数 651

回答の割合が多い上位3項目を順に「3 健康づくり・スポーツなどの体を動かす活動」が46.9%、「5 ゆったり対話ができ、人と人がつながる場や活動」が37.5%、「1 知識や教養を学ぶ講座」が34.3%である。

また、回答の割合が多い上位3項目に続いて、「2 ものづくりなどの体験を伴う活動」が32.9%となっている。

「3 健康づくり・スポーツなどの体を動かす活動」の回答の割合が多いのは、問7や問8の健康やスポーツに関することを学習し、その成果を生かしている人の割合が多いことが要因だと考えられる。



以下、その他の回答になります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	回答
10 代	男性	地域創生の行い方
20 代	女性	出会いの場（若者の）
30 代	女性	経営・英語などの学習講座
40 代	女性	自然栽培講座、大地の再生講座
50 代	男性	農地を守る活動
	女性	なし
60 代	男性	参加したいと思わない。
		仕事が忙しく参加できない。
	女性	道すがらの様子が雑草を一本一本みんなでなくすだけでも大雨の時の排水にもいいし、クリーン作戦なんかをするのもいいと思います。きれいな故郷の思い出にもなるし。
		何もしたくない。
		参加したいと思わない
70 代	男性	あいさつができない子供が大半である。
		義務教育の基本を教えてない。（教育者のレベルの低下が原因）
		今のままでいい
		地域単位、近所等、身近なグループ単位での人と人がつながるコミュニケーションづくり
		高齢になると、大きな活動への参加ができなくなる。
		音楽活動
	女性	足腰の悪い人でも参加しやすいようにしてほしいです。
		毎日が精一杯
		参加したくない。
80 代 以上	女性	学ぶには高齢すぎる。
		あっても足が悪いので行けない。

**問 20 多くの人が地域や社会での活動に参加するようになるためには、
どのようなことが必要だと思いますか。ご自由にお書きください。**

以下、記述のまとめになります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	意見
10 代	男性	宣伝方法 最初から生涯学習の活動ではなく、推し活、子育て、ゲーム等の専門的で開かれたコミュニティをいくつも発足し、そのコミュニティを集め、コミュニティの参加者には、専門的な既有知識があり、「生涯学習」をテーマにした討議でも様々な視点から議論を展開してくれるメリットもあるため、日ごろから様々な娯楽や趣味などコミュニティを発足させ、官民のつながりを強化して初めて自分の専門外のテーマの活動にも興味を示してくれる可能性があると考え。よって、日々のつながりが必要だと考える。
	女性	記載なし
20 代	男性	・すべての人に事前にそのイベントの広告を広くわかりやすく親しみやすく伝える努力をしてほしい。 ・この丹波市に若者がいつまでも住み続けることができるように、市または行政が働く場所の確立をして欲しい。 ・公共施設、アリーナをつくる。 ・企業を持ってくる。
		やりやすいような雰囲気づくり。
		誰でもわかりやすい環境を作ること。
		より参加しやすい状況を作る。
		賃上げで雇用の充実
	女性	・人間関係 ・責任を感じない行動、気軽に楽しめるように。 ・地域で一部だけのひとが大変にならないように。 ・まず地域のことを知ること。 ・ハラスメント的な意見になるべく気を付けてほしいです。 ・素敵なイベントがあるのにそれを知らないがために参加できないパターンが多い、丹波市の広報がもっと「読みたい」と思える魅力的なものになるといいと思う。 ・地域に興味、関心を持てるよういろいろな形で(紙・ネット等)多様な情報を配信すること。

30 代	男性	やる気
		SNS での活動をもっと活発に行う。市長のメディア露出を増やして人間性を知ってもらうなどで市政に興味を持ってもらうことでイベント告知への注目度が上がって参加者が増える。
	女性	ご近所付き合い、コミュニティの充実、見知らぬ人同士でも会話がで きるような関係性が必要
		情報発信
		人手が不足している場所に退職された方が生きがいや社会の役割を感 じられるように手伝える場所を作る。
		どの年代でも参加できるサークルを作り、周知する。
		ボランティアでお年寄りが小学校や中学校に出向いて登下校の見守りや授 業中にサポート役として入ってもらい生徒とも触れ合う時間を作る。
		体育館や会議室、図書館、支援センターが一体となった施設（西脇の ミライエのような施設）を作ることによっていろいろな人が利用でき、活動 の幅も広がる。
		チラシの配布や時間帯
		情報発信力
		市民に寄り添う市職員さんが“自分の仕事をこなす”ではなく、自分 だったと思うこと。
40 代	男性	市から各自治会にもっともっと声掛け等が必要だと思う。
		自分自身いろいろな用事があるので、時間にとらわれない、場所を選 ばない活動が必要
		世界の真実に目覚め、何のために生まれてきたのか、自分の魂と対話 することが必要だと思います。
		自治会の規模単位の見直し。未だに村単位になっている。大きく括り だして、地元出身者を中心に推進するのが望ましいと思います。
		情報発信、魅力的なイベントを企画する。
		したくない。
		強調しない。
		参加することでメリットを感じられる活動を企画する（目の前に人参 をぶら下げる）。きれいごとではうまくいかない。
		市内や周辺地域への活動の内容やイベントなどの行事などの周知と継続
		ギブアンドテイク、持ちつ持たれつなのでこの世は人一人では成し遂 げられない、何事も助け合い精神の大事さ。
		40 歳以下の人が住みたくなるようなまちづくり

		自治体の発信力、継続的な施行、試み。
女性		新聞・広告等を読むことがあまりないので、意識しないと活動の情報が手に入らない。SNS などでもっと多くの情報を発信した方がいいと思う。
		人とのつながりが大事かと思います。ネット社会でありますので、口コミで情報が広がれば多くの方が参加されるのではないのでしょうか。
		・ 誰にでもわかりやすい情報発信（年齢に応じた方法が必要、若い層には SNS、中高年にはチラシや回覧等） ・ 年齢層に合わせた魅力のある（楽しそう！と思える）内容の活動
		最近の様子から学校の PTA でも入りたくない人が増えてきています。そして近所でも仲が悪かったりと地域での交流がとても難しかったり、孤立されている人があったり。次の世代は都会に出られていたり、活動に参加が難しいように思う。私たち次の世代ですが、上の世代の人たち自治会の総会でもよくケンカをされたり、役員をされている人に対して強くあたったりと、見ていてとても不快な所を見受けられます。個人的な意見ですが、コロナで行事が少なくなり、少し生活が楽になった気分的に地域の活動をしなくてよくなった、と内心想ってしまった部分があり、これ私だけでしょうか？なので小地域よりももっと大きい地域で、地域のイザコザがない活動に参加してみたい。学校区やもう少し小さい区でもよい。
		人それぞれ興味があるものが違いますので、多種多様なものを繰り出してほしい。はじめは少人数を数多く。
		活動の周知徹底が必要だと思う。新聞に取り上げてもらったり、子どもを通じてチラシを配布したりしてアナウンスする必要がある。また、大人になってから、生涯学習をするのではなく、子どものころから、活動に参加するという学びの連続性が必要
		・ 働き方の充実 ・ 参加しやすいコミュニティ ・ 視野を広げ、今の世代にあったやり方に見直す必要がある活動もあると思う。
		情報の提供・周知・職場や学校、社会全体の柔軟な対応（親子併せて同時に休みが取れるなど）
		現役世代で独身や子のいない夫婦が地域社会に入りやすい環境があればいいと思います。
		口コミ、ポスティング、SNS 発信、児童館や園での配布、回覧板、スーパーなどでのチラシ配布

50代		地域や社会活動に参加するとポイントが加算される制度 例えば1度参加すると1ポイント。5ポイントたまるとちーたん商品券1000円分プレゼント（専用の券を作る等）参加に対してモチベーションが上がったり、理由づけになるかも。
		忙しい人が多いので、助け合える家族がいないと活動はできない。大家族が必要だと思う。
		丹波市がよそから見ても魅力的であり実際に住みやすく他人へ自慢したくなる生活基盤を作るのが先
	男性	・同じ人が長く同じ役を受けるのではなく、多くの人に担っていただけるような人選をする方法を考えること。
		・男性目線の役割分担や責任負担を大きく変えて、性別に偏らず役割を担えるような仕組みを考えること。
		手続きを簡単に。
		お互いを認め合うことが大事だ。
		「なぜ参加するのか」といった意義や目的をしっかりと示す必要があると思う。特に若者世代にとっては、それが響かないと参加するとは思えない。
		コミュニケーションの大切さ。
		イベントの開催 若者向け、家族向け、いろんなジャンルに分けての実施
		人口減少に伴いどこの自治会も運営するのが厳しい状況にある。自治会、PTA、消防、子どもの部活、お寺などある中で、掛け持ちなど当たり前の状況です。生涯学習大事だと思いますが、無理でしょう。現在は年金だけでは生活はできない、60代も働く時代です。地域のことを優先して生活できなくなるのは、、、
		自分の余裕、時間、経済的な余裕がない。
		多くの人に参加したいと思わせる企画を考えてください。
	女性	仕事や空き時間等、それぞれ違って参加できるように同じ教育を日にち、時間を変えて参加できる体制づくりが必要
		多くの人に参加するにはPRが大事ですね。
		・説明の分かりやすさ ・情報が受け取りやすい環境 ・学ぶための余裕（時間、お金）
		年齢や性別関係なく気軽に参加できるお祭りのようなイベントだと、地域の人たちも地域外の人達も行きやすいと思います。
		ハードルが高いイメージ

	情報発信、マチイロアプリで広報を見ているのですが、広報誌の出方が遅い、今月号が見たいのに出てくるのが遅い。
	親子で参加、交流できるイベント（社会体育以外）高齢の方と交流の場を定期的に。
	こういった活動があるのかの情報発信やそれに伴うリーダー的な存在（参加を呼び掛けたり、サポートしてくれるような）
	・ 柏原駅付近に娯楽施設 ・ 鐘ヶ坂の景観 ・ JR の複線及び料金を下げる。できなければ柏原→福知山間の電車グレード up、外装を変える。 ・ 氷上に道の駅を作る。
	今は何でもかんでもネット社会なので、高齢者や老眼が始まる年齢になると病院のネット予約でさえ面倒くさくなる。事務処理は早いんだろうけど、人と人とのつながりや温かみが少ないので、社会活動など他、積極的に参加したいとは思えない。
	高齢者の方には、お迎えサービス、対話のみ。 お若い方はネット、パソコンで参加すればいいのでは。
	時間や経済の余裕が必要だと思います。
	一人でも参加しやすいプログラム作り、学習したい参加したい気持ちがあっても他者とのコミュニケーションを取りたい、または、コミュニケーションを取るのが得意な人間ばかりではない。
	カタカナ用語をできるだけ使わず、分かりやすい言葉で発信するのがまず一歩だと思います。
	人の考えは多様であることを理解し、自分とは異なる考え方を否定しない。人の一面だけを見て判断しない。
	互いを思いやることのできる社会
	人づきあいが苦手な人のためにつなぎになるような人とか、仕事で手いっぱいでもそれどころでない人の家なら参加したい人がいても言い出しにくいので相手が休日だとしても出かけられないだろう。前述なら人材育成、後述なら家事代行だろう。
	年齢に合った社会活動の内容を把握し、参加可能な曜日、時間帯などを設定する。※平日 OK な方もいるので丹波市に住んでいる住民がどのような活動を希望しているのか大まかではなく細かく調査して、それに対しての指導者も集め年間のスケジュールを計画し参加される方の定員を MAX 集める。なんでも事前準備が必要です。計画を持って行ってほしいです。

60 代	男性	祭の充実
		・活動の見える化等の工夫で親近感を覚えてもらうこと。 ・仲間、身内の話から参加意欲を喚起されるような環境づくり。 ・とにかく、知られていない、知ろうとしないという状況を改善すべき。(ことが結構あるのではないのでしょうか)
		・地域の活性化 ・地産地消の強化 ・地域の特産品の強化
		・日頃の近所付き合い ・自治会への参加
		みんなが興味のあるような面白い企画を考えて、一人でも参加が増えるようにする。
		情報発信
		ゆとりが必要です。同じ人が役員を行い、負担感が大きくなっています。
		・同じ趣味で集まれる場にする。 ・地方は跡継ぎの集まりだと思います。考え方に責任がいります。同じ考えで対立してスキルを上げていくのがいいのでは。
		敢えて、サービスを提供しない事
		・生き残るにはどうしたらいいか? ・金のもうけ方
		メリットがあること。
		・参加者個人のメリットと地域社会のメリットができるだけ一致する活動が良いと思う。 ・個人の楽しみが地域への貢献につながるものなら多くの人が参加すると思います。
		どうやっても参加するようにはならないと思う。
		現代は個人主義化しているので、これからも参加しなくなるのでは。
		非常に難しい問題であり強制できることでもないし、自治会単位の活動ですら、役員当時は責任上参加し参加を募るが、役員を辞めた後も継続して参加するというと参加しなくなる。当然、都度増えて当たり前の人数が確保されないなど、いまや自分のこと、家庭単位のことでは精いっぱいになるのではあるのか、なかなかそこに至れないのが現実で、得策は思い当たりません。

		実態を知ること。子どもが困っていること、子育てで困っていること、障害者が困っていること、一人暮らしで困っていること、高齢者が困っていること、若者が困っていること等を本音で知りたい。そうすれば課題が見えてくる。自分勝手なことは別にして。
		年寄りが余計なことを言わない。
		・日頃から、地域の人達と顔を合わせる機会を作る。 ・みんなが参加できるような、強制的ではない声掛け。 ・市の担当者の地域の会合等への参加
		・できるだけ参加しやすい日時で何かメインとなることを設ける。(食べ物、講演会、プレゼント他) ・小集団での活動にする。(企業さんに賛同してもらい半強制的に参加を促す) ・子どもさんに参加してもらい親、祖父母も参加してもらう。 ・広報などで大々的に予告する。 ・身近な問題のテーマ(後継者、自治会、災害、防犯ほか)の講演会など。
		やる気
		ボランティアの心を持つこと。
		相手を尊敬する。多種多様な考え方を尊重し、まず聞き意見交換、認め合い、人の考えを受け入れられる広い知識と教養が身につく学習会が必要
		その活動がいかに気軽に参加出来るかどうか？だと思います。
		各自治会の役職に進んで参加する事が大事でないと地域の事がわからないから。
	女性	誰もが参加しやすい環境や施設の整備
		住民センターやライフピア等の施設をもう少し安価で貸し出ししたりしてイベントをしたり、講習会をしたり、気軽にできるようにしてほしい。
		生涯学習に取り組む姿勢を自ら率先していこうと思います。
		定年 70 才になりつつあるので、地域活動まで余裕を持った気持ちがあるか？
		近くの自治会の呼びかけにより集いの場を設け、参加できるようにしていくことが必要
		「学習」のひびきがハードルが高いです、学びはソフトに小さいごみの分別や薬のもらいすぎなんかから楽しく参加できることから、短時間で出やすい時間(ランダムに1日のうち何時から何時までにとか)

		専門家やコーディネーター人材の育成や、声掛けが必要だと思う。自主性だけでは難しいことがあると思うので、半ば強制的に参加してもらうことが必要だと思う。
		サポートを必要とする人に手の差し伸べられる社会にしてほしい。
		職種により、参加できる時間がまちまちなので、同じ内容の講座を数回に分けてスケジュールを組んでほしい。強制的な参加も必要で、活動をして楽しさややりがいを知ることもある。
		広報活動の充実、「行ってみたい」と思わせるテクニック、「行った」人の口コミ
		参加したくなるようなアピール、声掛けが全ての人に届いてほしい。送迎も考えていく必要があるのでは。
		参加すれば参加賞がいただけるのはうれしいです。
		地域のことを理解できる活動
		情報発信の工夫と充実
		私の住んでいる地域では、自治会の役員がほぼ男性であり、女性の意見は、ゼロに等しいです。今後はもっともっと女性の役員進出も必要ではないでしょうか。
		リーダー的人材
		・人から人に継続する情報力 ・上に立つ人の人間性と内容の魅力
		・市民のニーズを明確に。 ・一人で参加するのは気が引けるので人とのつながりを増やす。
		若い世代の人が自由に意見を言い合える場所が必要
		呼びかけの工夫、各職場に必要な情報を提供、家庭内ならコミュニティを通して発信
		日々の生活が大変で、なかなか参加したいと思えないです。
		交流の場、憩いの場が必要だと思います。学校の合併等で子どもの人数が減少している中、こどもを巻き込んで交流することもいい方法ではないかと思います。
70 代	男性	特に高齢者は生活に不安がないこと（健康・お金など）介護や見守りが必要な家族があると参加できないので、その家族を安心して預けられるシステムが必要
		高齢者は出たがらないため、情報発信や出前講座をやってほしい。
		活動に参加する目的、重要性についてやさしく説明する。
		国が考えること収入を上げるより道なし。

	地域、あるいは職場での仲間づくりが大切である。そのための手助けを行政としてどう取り組むのか、考えてほしい。
	なぜ参加するのか、また、なぜ参加しないのか尋ねてはどうでしょうか。
	半強制的な活動にしない。
	自治会をはじめ、地域活動の活性化、特にコロナ菌発生以後、人々とのつながりがなくなってきており、コミュニティ活動が薄くなってきている。
	コミュニケーションがまず必要と思う。特にコロナで人の出会う機会をなくしたことが、原因の一つと思われます。
	日常生活の中で、お互いが抱えている悩み、課題など共通の課題としてとらえられる場、問題解決を図ることにより今後の生き方に生かされるようになれば、社会向上につながる。
	各自の意識改革 そのためには行政が全国で行われている町づくりの取り組みについて紹介し、その思いを共有できるようにしていただきたい。例えば、災害体験から住民の意識を改革する取り組みをされた自治会等の実践を聞く。＜人は一人では生きられない＞
	これからどの地域も人口が少なくなって部落全体を守るのが大変だと思います。例、山林の管理、川の草刈り
	価値観が多様な社会ですから、様々なテーマを準備して、きめ細やかな対応が必要だと思います。
	現在の子供たちの遊んでいる時間が少なく思う。塾や習い事に、親のパワハラ、ハラスメントと多様化している。大人にとっても、個人の意見の自由といって統一性が取りにくいのではないかと、市議会のことでも一緒に、4年間で実行性良かったのは2点ぐらい。
	近場の活用、公民館やコミセン
	無関心の人に何を提供しても無駄 無関心を解消するための政策が必要だと思います。
	ニーズが多様化しているので、多くの人の参加する継続的な活動は難しいと思う。まず、各自治会での行事を充実させることが大切
	・ 本人の問題意識と関心 ・ 関心を引き起こすための広報活動、身近な題材を用意する。
	特定の人が目立つことがないように、参加する人すべてが平等に公平に作業、発言、行動できるようにする。そのためには参加する前に各自の意思を集めてそれをみんなの前で発表する。名前をあげずに。

		色々活動目的内容を決めて推進努力をしても義務感が先行し、活動範囲が狭まってしまう。又、多種多様の意見が反映されているのかについては役所自体の関心度の低さを感じる。この地域だけの問題ではないかも知れませんが…。
女性	朝の挨拶から始まり、人と人とのコミュニケーション力が大切だと思う。	
	交通手段の無い人には送迎が必要だと思う。	
	細かな呼びかけ。知らない事がある。	
	交通面で参加できない。	
	高齢者が多い中、まずは移動手段をどうするか、また、参加しやすい内容	
	もっともっと PR が必要	
	地域活動のアドバイスができる人材育成	
	同じような方が活動していくことではなくて、いろいろな方が交代で活動できるものにしてほしいと願っています。	
	気軽に参加できる活動内容と場所の確保が必要だと思います。誰もが参加可能な移動手段の確保	
	ゆとりのある時間	
	協力	
	・交通の便→足→自分で車の運転をしない人用 ・家族構成→子供と共にとか	
	人に誘われて参加するのではなく、自分から進んで参加しないと長くは活動できないと思います。(私は今もグループでしていたことも今は一人になっていますが進んでイベントに参加したりして活動しています。)	
	・会場が近いこと ・参加すると得られる満足感 ・楽しめること ・相互理解が深まること	
	特になし	
	自治会内でサークル的な集まりから始められればいいのではないと思う。	
	高齢者にとって、参加したくてもイベント、学習会の会場まで行きづらい。乗り合いにしても何かあったとき、運転者の責任を考えると行動できない。	
	今の私に必要だから受講しようという内容	

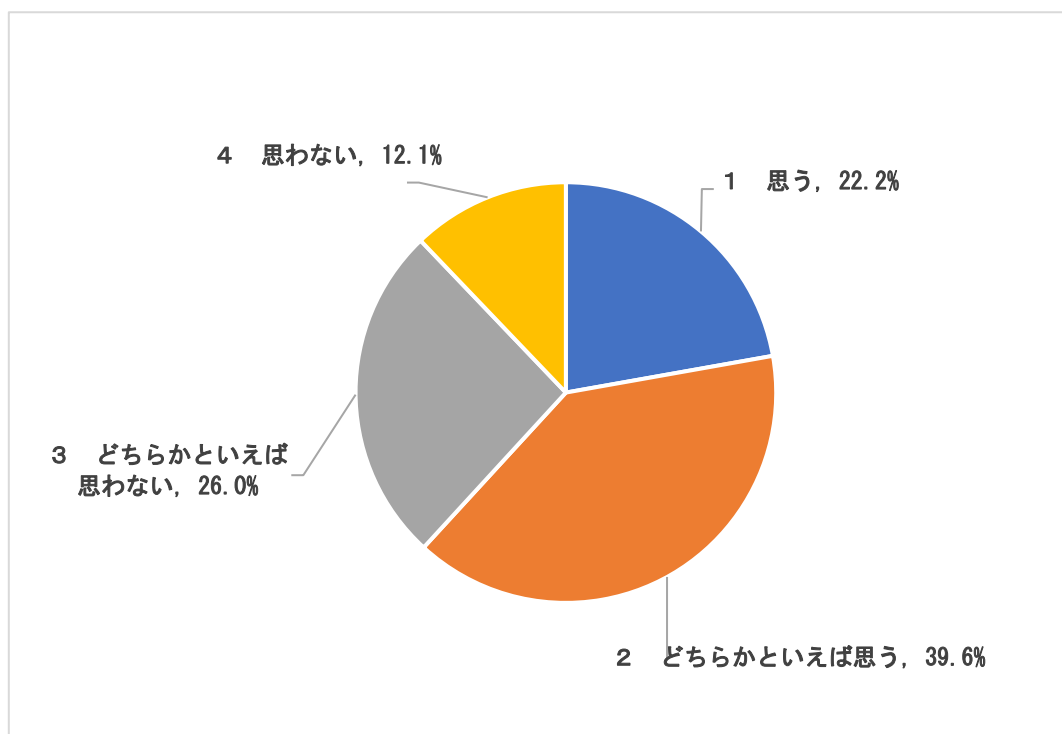
		・高齢になると、車がないとどこにも行けないので近く（自治会）などの場所で学べるといい。 ・やりたいなと思える人を増すよう、声掛けをする。 集まった場所で、人のうわさ話をしないようにする。
		活動の具体的な視覚化及び社会的に関心の高いテーマの取り上げ。
		ゆとりが大切だと思う。
		声掛け
		もっと地域に根差す活動、市の中央での活動場しかないのは高齢者にとって同じ市民として残念
		・会場までの移動手段→公共交通機関の活性 ・広報誌の充実①お知らせ情報やイベントの内容、案をもう少し前ページで示してほしい。②イベントや公演の紹介など羅列してできるだけ見やすく。
		会場まで行く足 車の運転ができないなどの人のために会場までの送迎車があれば行きやすい。
		年齢を重ねていくとだんだんできなくなることが多くなります。そのため、出ていくのが嫌になり、行事に参加しにくくなります。私にできる事は掃除ぐらいかなとつくづく思います。
		多くの人が必要な日でも人が少ないからそちらに手を取られる、まとまって何かしら一つの目標に向かいたいけど、忙しい人が多いからだめ。
		専門用語を使わず、易しい表記での案内を期待します。専門用語、外国語などでの案内図れば参加する気がしにくい、言い換えて表現してはどうか。
		活動をより多くの人に知ってもらう事。自分を高める意識を持つ。
		健康
		集落ごとの課題の設定等
		一番身近な公民館で、老人に関わることをしてもらう。
		若い方達の為に土日とか行動しやすい時間が必要だと思います。
		あたたかく受け入れる心が大切だ。
		地域の清掃すら、日曜日参加が当たり前で、土日仕事が入っている人は毎回3,000円を徴収され、高齢で、家に病人を抱えている身は病院通いが休みに使うのが精一杯です。丹波市に来て、優しさを感じたことは一度もない！
80代以上	男性	多くの人に参加できるイベント。また、体を動かすスポーツ、グランドゴルフなど。

		リーダーを見つけること。
		各自治区の活動状況を把握すること。（活動最小拠点の集会を活発化させる必要がある、当地区は年間0回）
		役員のなり手不足、免許返納者の地域間行動の不自由の解消（業者との問題があるかもしれないが、デマンドタクシーも活用が拡大されないか。地区間輸送の問題）
		・日本の中での丹波市の現実・現状を知る。
		・丹波を生かした特産物、産業等発掘意欲、挑戦意識（丹波ブランド戦略）
		まずは隣人交流から。
		地域で活動する若者を増やすと同時にサポートする人材の育成
		運営側が、地域の資格取得者マップを作り、事業に適切な人を選んで参加させること。
		手段が必要
		人口が少なくでは何もできません。
		イベントに魅力があること参加者が色々と体験できるようなイベント
		古民家の活用、近隣同士の交流が少なすぎる、昔は金がなくても年の差もそれほど関係なく、話をしていた。老人には、古民家等でお茶のみ場を作る。
	女性	・若いころは自分の為に活動できる時間がなかった。
		・現在は自分の為に活動時間はあるけど、精神的にも肉体的にもおっくうさが勝りながらなかなか思い切り活動できない。今後頑張ろうとは思っている。
		発信だけでなく、各自が各自のやりたいこと、まなびたいことを発信する場が必要だと思う。
		コロナ禍以降にいろいろな活動が簡略化されたために参加する機会が少なくなってきた。以前のような活動が開催されることを願っています。
		老人の憩いの場がない。集まって話し合い生活の知恵にしたい。
		自分から進んで参加することがよいと思います。
		身体的に自分の生活を維持していくのに精いっぱい、なかなか若い時のように出かけられなくなりました。
		高齢者になるとどこへも行けない。近くで行ける場所を作ってほしい。
		民生委員の人格

問 21 あなたは、今後、生涯学習を通じて学んだことや経験を仕事や地域活動に生かしたいと思いますか。

有効回答数 626

今後、生涯学習を通じて学んだことや経験を仕事や地域活動に生かしたいと「3 どちらかといえば思わない」もしくは「4 思わない」よりも、「1 思う」もしくは「2 どちらかといえば思う」人の割合の方が多いことがわかる。



[問 21 で「1」「2」に○をつけた方にお聞きします。]

問 22 あなたが生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を仕事や地域活動に生かすために必要なことはなんですか。

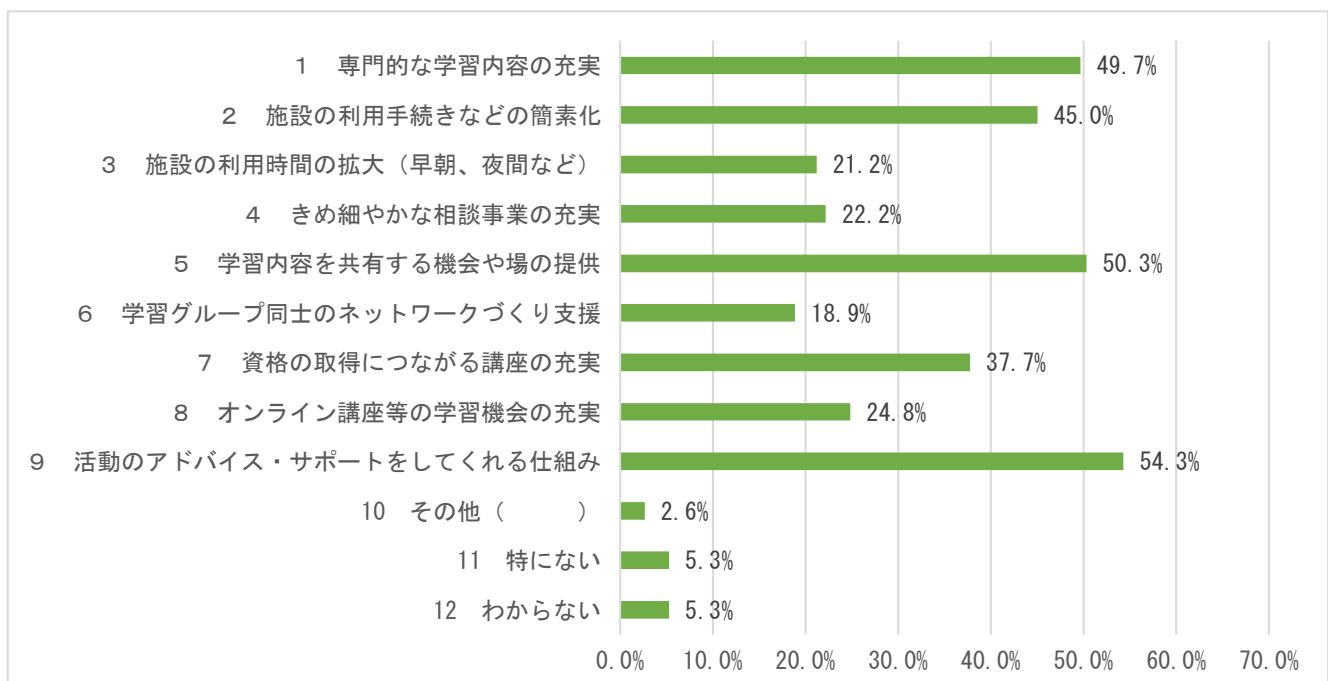
あてはまるものを3つ選んで番号をご記入ください。

有効回答数 302

回答の割合が多い上位3項目を順に「9 活動のアドバイス・サポートをしてくれる仕組み」が54.3%、「5 学習内容を共有する機会や場の提供」が50.3%、「1 専門的な学習内容の充実」が49.7%である。

回答の割合の多かった上位3項目に続いて「2 施設の利用手続きなどの簡素化」が45.0%、「7 資格の取得につながる講座の充実」が37.7%となっている。

生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を仕事や地域活動に生かすにあたって、ソフト・ハードの両面に課題があることがわかる。



以下、その他の回答になります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	回答
30 代	男性	それに当てられる余裕や時間
		支援の継続
	女性	自分自身の決断力、行動力
40 代	男性	目覚めた者同士
	女性	身に付けた知識と必要な場とのマッチング
50 代	男性	個人レベルにあった教育プログラム
		回答なし
	女性	健康
60 代	女性	求められる内容や場などに関する情報を取得できるしくみが必須

〔問 21 で「3」「4」に○をつけた方にお聞きします。〕

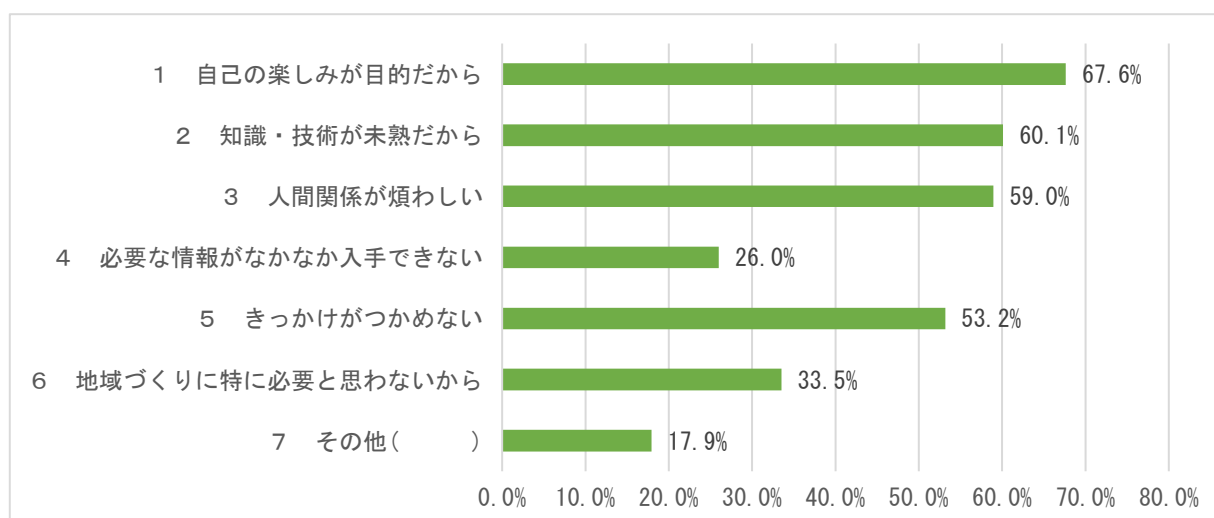
問 23 あなたが生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を仕事や地域活動に生かしたいと思わない理由は何ですか。

あてはまるものを3つ選んで番号をご記入ください。

有効回答数 173

回答の割合が多い上位3項目を順に「1 自己の楽しみが目的だから」が67.6%、「2 知識・技術が未熟だから」が60.1%、「3 人間関係が煩わしい」が59.0%である。また、回答の割合が多い上位3項目に続き、「5 きっかけがつかめない」が53.2%である。

「6 地域づくりに特に必要と思わないから」も一定割合を示しており、学んだ成果を地域づくりに生かす「知識循環型生涯学習」の考えが十分に浸透していないと言える。



以下、その他の回答になります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	回答
20 代	男性	ニーズに合う生涯学習がない。
50 代	男性	地域に入っている感じがしないから。
60 代	男性	人それぞれだから
		一生懸命やっても相手に届かない。
	女性	設問の意図が強制的に思えて嫌
		病気療養中のため。
70 代	男性	身体的問題
	女性	身につけた知識がない。
		年齢が大きすぎて頭がついていかない。
		時間がない。
80 代	男性	高齢のため。
以上	女性	身体的に無理
回答なし		高齢でお世話になる方です。

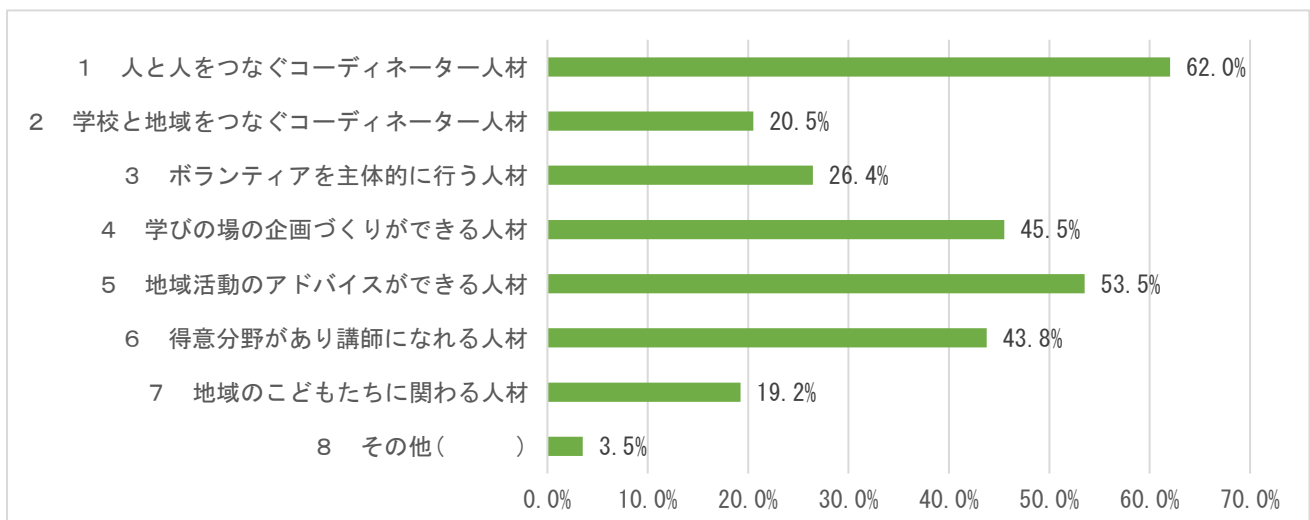
D. まなびを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を支える人材について

問 24 まなびを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を推進していくためには、どのような人材が必要だと思いますか。
特にあてはまるものを3つ選んで番号をご記入ください。

有効回答数 624

回答の割合が多い上位3項目を順に「1 人と人をつなぐコーディネーター人材」が62.0%、「5 地域活動のアドバイスができる人材」が53.5%、「4 学びの場の企画づくりができる人材」が45.5%である。回答の割合が多い上位3項目に続き、「6 得意分野があり講師になれる人材」が43.8%である。

まなびを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の推進には、回答の割合が多かった上位3項目にあるような能力や技術を持った人材の育成や掘り起こしが求められていることがわかる。



以下、その他の回答になります。※原文のまま掲載しています。

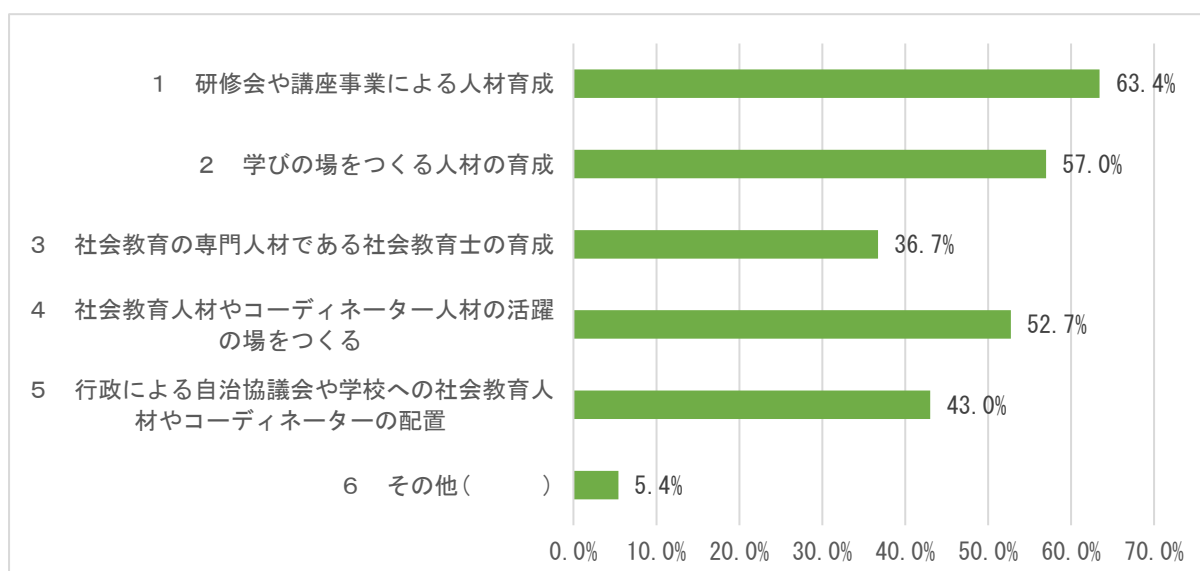
年代	性別	回答
10 代	男性	官・民・経をつなぐコーディネーター人材(初級地域公共政策士等)
50 代	男性	地域の困りごとを相談、解決できる人材
60 代	男性	期待しない
		魅力のある人間
		地域の学びの経験がない。
		地域の歴史を語れる人
		解決策を講じる人材
70 代	男性	特になし
	女性	地域に残された者は自治活動（役）をたくさん受けているのでUターンを促す。
		誰もが土日休みと考える人
80 代 以上	女性	なし
		わからない

**問 25 あなたは社会教育人材やコーディネーター人材を増やすためにどのような支援が必要だと思いますか。
特にあてはまるものを3つ選んで番号をご記入ください。**

有効回答数 588

回答の割合が多い上位3項目を順に「1 研修会や講座事業による人材育成」が63.4%、「2 学びの場をつくる人材の育成」が57.0%、「4 社会教育人材やコーディネーター人材の活躍の場をつくる」が52.7%である。

回答の割合が多かった上位3項目のように、人材育成や活躍機会の促進が求められていることがわかる。



以下、その他の回答になります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	回答
40 代	男性	行政からの助成金
	女性	補助金
50 代	男性	プロを雇う
	女性	兵庫県内でのあらゆる分野の資格講座の紹介や補助を検討する
		研修会や講座に参加する費用出費か負担
60 代	男性	必要ない
		不明
		地域の人材の掘り起こし。
70 代	男性	特になし
		自治協議会単位で勉強会の実施
	女性	分からない
		分からない
		今いるものは自治会で手いっぱいです
		机上の空論を役所の中でしていないで、足で動ける人材を育てる事
80 代 以上	男性	生涯学習という言葉が堅苦しいため、易しい表現に置きなおして広報してはどうか
	女性	必要と思わない
		わからない
		web で完結する仕組みをつくる

問 26 生涯学習活動について感じている課題やご意見を自由にお書きください。

以下、記述のまとめになります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	意見
10 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
20 代	男性	丹波市において人口が年々減少していく傾向に不安を持ちます。お年寄りがなくなるのは自然現象として仕方がないのかもしれませんが、若者が大人になって、都会に流れていくことに不安を覚えます。このままいくとお年寄りともどもしかいない町になるのが怖いです。
30 代	男性	収入につながらないと結局の所意味がない。丹波市では経験や資格があっても給料が低く生活の為には時間を犠牲にする他なく学習に費やす時間が少ない。
	女性	生涯学習活動があることすら知らなかったのもう少し認知度を深めてほしいです。
		生涯学習という事自体があまり身近でないので考えたことがない。
40 代	男性	時間がない、心のゆとりがない。
		日程が平日だと参加できない。(仕事のため)
		ほぼボランティアであること。報酬があれば仕事を休んでいける人材が増えるのでは。
		自治体による発信、広報、案内
	女性	学びたい気持ちはありますが、時間にゆとりがないのが現状です。
		なかなか日々生活に追われている中で、自分の学びに時間や心の余裕がないこともある。本当に自分自身に必要な機会が無いと当事者意識がうまれないと思っています。Etc. 自分がこまった、病気になったとなれば地域や健康作り等に目を向けたりするかもしれませんが今は毎日の生活におわれているのです。しかし必要性は感じているのでこれから関わっていきたいです。
		一部の人の参加になっていると感じる、自分が定年後参加するかと問われれば悩む、急に参加はできないので子どものサークル活動の延長でコーラスを続けるや、サッカーをするなど、子育てをしている頃から生涯学習に関わる必要がある。将来の見通しができる啓発活動が必要ではないか。

		学びたい、知識を深めたいと思っている人は多くいるのではないかなあと思います。ただ、現役世代の場合日々の慌ただしさにそのままやりすごしてしまったり、時間が合わなかったりというのがあるのかなあ。年配の方でも意欲の高い方は多くいると思いますが、活動へ参加する術(交通手段等)がむずかしかったりするのかと。
		はじめの一步のハードルが高いと思う。知り合い同士、たとえば2人ペアで参加することでお得になるような制度があると、友達同士で行ってみようか、となりやすいと思う。
		学習活動をする時間的余裕、金銭的余裕がない人が多い。
		ネーミングや形にとらわれない。中身の充実が先。
50代	男性	消防団の詰所開放
		・高齢者向けの内容に感じる。 ・社会の進展に見合った内容とは思えない(学習内容が古くさい)
		市職員のレベルが低い。
		何回か講座を受けましたが、その後の活動や活かす場がなくただ講座を受けただけで終わっています。 講座を受けた後活かせる場も含めて講座を開催してもらいたいです。
		市は、自治会に何人以上の出席など、強制的な参加はよくないと思う。 自発的に参加する人が増えればいいのですが、むずかしいですね。
		自営業のため死ぬまで働けたらと思っています。その活動のため、学習活動と感ずることが全くありません。
		活動についての情報伝達手段が乏しいのではないかと思います。参加したくてもいつどこで何が行われるか把握できていない方がたくさんいるように思います。
	女性	仕事がシフトで休みも仕事時間もバラバラなため、参加したことはありません。そういう人でも参加できる準備が必要だと思う。
		丹波市に魅力を感じられるように考えてほしい。 せっかく電車、無料高速があるのだから、人を呼ぶ、呼んで来たら楽しかったと思える街作りを。 天災に強い町に。 町並みをきれいに。草とかごみとかない町に。住みよい街になると生涯学習活動に出るのでは。

		色々な活動がされていることを知らないだけかもしれませんが、生涯いつでも自由に学習機会を選択し、学ぶことができるとはいえ、今すぐ仕事に必要でなければなかなか学びの行動に移すことは難しいと思います。勝手な意見ですが、興味のある情報があればもしかしたら行動に移すことも考えると思います。
		生涯学習活動は大切なことだと思います。
		生涯学習という言葉はざっくりしていて、広報などでは見るが、存在のみ知る人が多いと思う。お年寄りが関わるイメージもあるが、質問を見る限りそうではないので、若い世代へ向けた内容も必要ではないかと思う。
		丹波地区に住んでいる方はたくさんいます。資格を持って現場に生かして仕事している方もたくさんいます。そのような方を探す為にももっとインスタグラムなどを利用して定期的な発信や内容を実行すべきだと思います。受ける側も指導する側もどちらも win になる様な宣伝も必要かと…。
60 代	男性	人の善意だけで行えることには限界があることを理解するべし
		「学習」の名称に拘泥しては高齢者には近寄りにくいものになりかねないのではないか。高齢化が進む中で「孤立しない」「孤立させない」身近な活動が重要だと感じる。
		都市部より地方はやることが多すぎて自由な時間が取りにくい。仲間との時間の調節も難あり。
		学びたいと思う力が必要、人からもらっても仕方がない。
		どのような活動があったのか知らない。
		情報はネットに。 モチベーションを上げるきっかけ作りの場の提供
		学習するのは個人の意欲が前提になると思います。 学習してスキルを身に着けた人材が地域でどのように貢献できるのか（メリット）を市民に広く知ってもらえる場、環境が必要になると思います。この情報を見て個人が学習意欲を出すことに期待することになると思います。
		国際政治に関心のある人がそういるとも思えないので一人で学んで行きます。
		その魅力を SNS 等でもっと配信するか、その活動報告を含め、市民の関心を高める方法を検討し、参加しやすい時間、日時を検討し呼びかける。以外は思いつきません、難しい問題です。いかに興味を持たせるかしかありません。

		役職を作りすぎていないか（コーディネーター等）地域には埋もれている人材がたくさんあるはず。そういう人達を発掘し、表に出てもらうこと。身近な人は地域に大切な人である。
		私の周りに生涯学習活動をしている人が少ない。（学習内容も分からない）
		丹波市での学習活動は現在でも多くの学び等の企画をされていると思います。若い世代、子どもさんのこと、ご両親のこと各家庭で毎日忙しい中、一度で全世帯には難しく、個々にあった学びでいいのでは、今や携帯、テレビ、インターネットでの情報入手が可能なので。これからの良い丹波市をめざし、企画される市役所職員様、今回のアンケートありがとうございます。これからもよろしくお願いします。
		持続性、自主性が足りない。
		人生 100 年時代に活躍できる人材づくりを多種にわたりしていく必要があると思う。人づくりや、人を育てていく活躍の場を作り、集会所等使用しなくてもできるような方法で（例えば、CATV、CP 利用）場作りが必要と思う。各家庭の Wi-Fi やスマホ利用して。
		生涯学習活動は大変良いと思います。課題については参加したことが無いのでわかりません。
	女性	生涯学習活動を行う事によって、人や地域とのつながり一人一人の生きがいや個性を生かせる環境の充実
		仕事やプライベートでの自由時間を利用して学んで行くことの重要性を感じました。学習できる機会があれば参加します。
		「人が生涯にわたり学び、学習活動を日々続けていくこと」だと思う。そのことを理解したうえで、学びの場を作る人材の育成また、活動の場を作り、それを広めていってほしいと願う。大小に関わらず、生きている限り日々勉強だとこの年になり痛感している
		問 21 にも書いたように何か強制的な感じが嫌です。やりたい人の後押しはいいけど、それを社会（地域）に何かやりなさい的なイメージがこのアンケートにうっすら見えて、、、
		何かの勉強会やスポーツ等の活動に参加するというイメージが大きいですが、日々の生活の中での学びもたくさんあるので、発信共有することも大事なと思う。
		今フルタイムで働いているため、日々の生活で精いっぱい、取り組むゆとりがあれば。
		活動しようと思う人は限られているのではないか、関心のないところに推進しても仕方がないのではないのでしょうか。

		生涯学習を難しいものとせず、だれでもまずはできる事がいいです。
		日々の生活に追われるばかりで、ゆっくり考えることがないです。
		人間関係が疎遠にならないような取り組み、孤独死を防止するためのコミュニティづくり。
		地域格差、内容の偏り、マンネリ
		古民家の空き家がたくさんあるので行政が積極的にかかわり、古民家の再利用をし、学びの場など人と人をつなげる場所を増やしてほしい。その企画に多くの若い人が加わってほしい。
		少子高齢化が顕著になっている当地域において、若者から高齢者まで一緒に学べる場所、つながり、活動内容の検討が必要かと思います。
		生涯学習という言葉がうっとうしい、強制されるものでもない。
70 代	男性	家にいるのが当たり前になり、出不精になっている人を生涯学習に引き出すのは非常に難しい。推進キャンペーン月を設定し、ダイレクトメールを郵送して、何に関心があるかを把握して関心を持っている学習会に強引に引き出す。
		学習一方通行でなく学習後の参加者による討論会などで人と人の、コミュニケーションを取って欲しい、テレビを見ているだけの一方通行でなく、対話型にしてほしい。
		自分の生活で他人のことを考える余裕がない。国民（市民）の収入が増えないとすべて出費しない。
		日々、毎日が学習の場である。個人の意識の持ち方で、学習の効果が違ってくると思う。
		高齢になると出かけるのが面倒になったり、困難になったりする。
		コーディネーターや講師の人材育成も必要であるが、丹波市員が身の回りへの課題やどのような問題をもって生活しているのか等の関心度の把握が必要ではないかと思われます。
		身近に抱えている悩み、課題を共有できる場作りが必要です。
		市政と日々の生活が合致していないので、時間ができても生涯学習活動へスムーズに入っていけないのが実感です。活動への気持ちはあっても中途半端で終わっているようです。しかし自身の反省も含めて簡単に入っていける機会をお願いしたいです。
		70 代ともなると体力、健康面で継続が難しい、また、1 家族の少数化によって、休みの日や夜にいろいろな場（コミュニケーション）を取る場に出ていきにくい。

		このアンケートについて、各設問の単語の注釈を入れてもらえれば分かりやすいと思います。問 7 の学習とは、問 13 の生涯学習とは、など。問 27 とか
		自分の時間を豊かにする。 人のためになることをする。 続けられることをする。
		生涯学習活動に特に参加をしてはいないが、地域の活性化につながる活動、小さなことからでも始めたいと改めて思いました。的外れかもしれませんが、地域住民としての自覚をもって生きていきたいと思えます。
		「人間死ぬまで勉強」と言われているので勉強を児童、生徒、先生だけに任せずにすべての人がする必要がある。そのために何らかのテーマを決めて意見を出してもらい、それに対して当局が返事を出すという方法があります。その中でいいと思われるのを、広報たんばなどに記載してあげるのはどうでしょう。
		毎年同じ人が指導活動して、一部の人しか参加していない、無関心な人をどう参画させるか。
		丹波市内に街角ピアノの設置を要望します。公共の場所に設置される誰でもが自由に弾けるピアノです。街角、鉄道駅、コミセンの建物のロビースペースに置きます。音楽を通じて人と人とのつながりを生みだします。と同時に美しいメロディーが流れ人々を明るい気持ちにさせます。最近、学校の統一化により、使われなくなったピアノがある。ぜひ活用していただきたい。
	女性	長寿社会になり、いつでも自分磨きができる機会が増えればよいと思います。
		公民館等近くで参加できる事
		講師を依頼して学習する方法もあるが、地域で専門の知識を持った方がおられると思う、そういう地域の中から人材を見つけて、身近な学習活動もされている地区もあるが、掘りおこしもいいと思う。
		これらの全てが強えられることなく、個人の自由に思い、活動できるようにすることが、課題になればいいと思う。
		生涯学習というと、何か特別感を持たれている方もあり、参加に二の足を踏まれる方も多いと思います。まずは、気軽に参加してみようという場所と内容があればと思います。

	自治会や地域での学習の機会があっても参加する人は、役員や関係者だけみたいにある。昔からの地域の行事もほとんどコロナ以降復活していない、音頭を取る人がいてもほとんどが消極的だと思う。何を計画しても一緒だと思う。
	年を重ねてから体力、気力の低下と、もう、いまさら何を学ぶの?と消極的になりながらなので、広報などでも高齢者特別枠などで、体力アップなどお得な情報を載せてほしいです。
	特になし。
	このアンケートを書いて改めて生涯学習の重要性を感じました。しっかり取り組む事で元気な市町村が生まれるのではないかなと思うようになりました。コロナ以降、希薄な人間関係が続いていましたが、生きていく上でとても大事なことの1つだと思います。市町村、個人も本気で取り組む必要があると思います。
	耕作放棄地が増える一方の現状において、環境保全の立場から、JAとタイアップして花や野菜、穀物等の農業分野も生涯学習の一つとして取り入れられないものか、農の学校のような専門的なものではなく、もう少し気軽に取り組める学習
	高齢になっても学びたいという人は多いのに補助金を打ち切ったりしている。元気な老人を作ること＝医療費の節約である。ものを与えてくれと言っているのではない。イキイキした交流の場を作してほしい。
	他人に言われなくても自分で今までの経験で思うままに気ままに過ごしたい。
	生涯学習活動に参加しているわけではないのでよくわからないが、環境問題や自然災害等、専門性の高い人材による講義、講演が必要
	自己中心的でなく、広い心が持てる様であってほしい。
	こんなアンケートは無意味。もっと地域における人材不足を考えてください。
	生涯学習活動が広がり活発になることはよいことだと思う。 生涯学習に関わろうと思える内容であったり、参加しやすくなるといい。 生涯学習というタイトル名は難しさなど重い感じを受ける。
	コーディネーター、アドバイスができる人材とか、私は必要ないと思います。何につけても同じ人が出てくるから意外な人、遠方の人、外国の人など、あっと驚く人を探したいです。

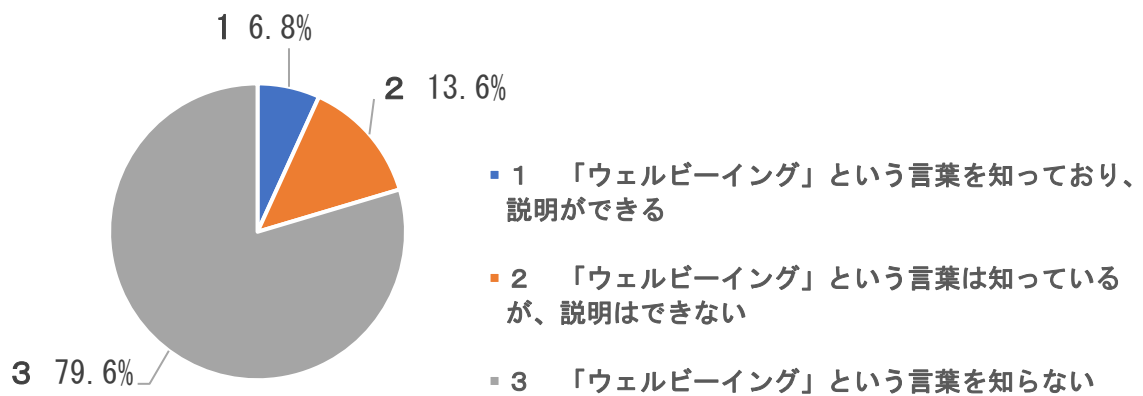
		現役世代は、仕事、家事で忙しく時間が取りにくい。退職後はいろいろできたらいいと思うが、気力、体力が持っているのか気になる。
		丹波市にリターンとして 20 年目を迎えています。前は伊丹市に住んでいました。伊丹市に住んでいた頃は子供の手もはなれ、健康のためにスポーツ全般を教え拝き（体育館 室内ですが）老後の健康にすごく役立っていると思います。若い頃は体も良く働き良かったと思います。高齢になり学びはなくなりました。
		70 代になると生涯学習活動より、終活を考えていく年齢なのです。
80 代 以上	男性	生涯学習基本計画書の中で、計画の推進について具体性が少ないので目標達成のフォローがどうなっているのかわかりません。
		場や金も大切な財産、使ったり、あげたり、燃やせば残らない、いいことも体験は人にいくら上げても減らない財産、子どもから大人になる過程、勉強の中身が知識や高学歴か？アンケートを本当に市民のため有効に利用するために真剣に考えたものか、上部団体に求められたからするのか、大きな差
	女性	昨年度はシニアカレッジの活動を楽しみにしていろいろ勉強させていただきましたが、今年はその活動もなく、残念に思っています。
		いろいろ意見を発表する場をいただきましたが、高齢で考えることができません。また、車にも乗れなくなると一人ぼっちの毎日です。自分の車の安全を考えるのがやっとの日々で、昔活動で来た頃を思い出すのがとっても懐かしいです。ご苦労様です。
		申し訳ないのですが、家業が忙しく参加できず、今 86 歳になり悔やんでいます。なので、このアンケートにお答えする事が少なく申し訳ありません。
		私は 83 歳で女性です。今やっていることは、炊事、パズル、100 歳体操、20 分の散歩、自転車、新聞は毎日読んでいます。 テレビはニュース、料理、動物のもの、朝ドラ等です。できるだけ明るく生きる予定です。くよくよしないことです。
		老人にボケ防止の講座、就活の仕方。
		若い人が昼間不在が多い中、ふれあいがいい、また、都会化してしまっていて、ギクシャクした、自治会となっている。これを何とかできるよう、部落の上層の方々に頑張ってほしい。付き合いが満足にできていない状況です。

E. その他

問 27 あなたは「ウェルビーイング」という言葉を知っていますか。また、自身の言葉で説明できますか。
あてはまるひとつに○

有効回答数 662

「3 『ウェルビーイング』という言葉を知らない」の回答の割合が79.6%であり、言葉の認知度として低いと言える。



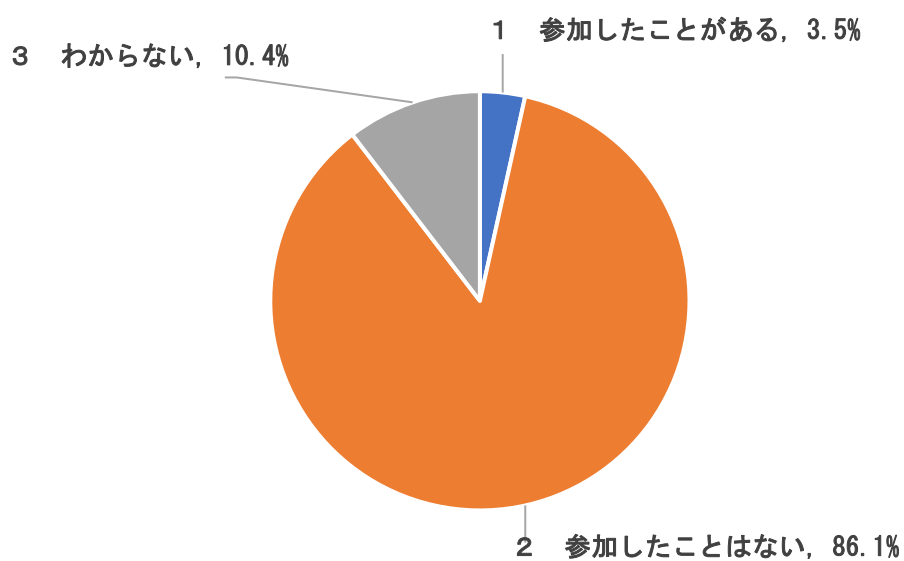
〔問 27 で「1」「2」に○をつけた方にお聞きします。〕

問 28 「ウェルビーイング」をテーマにした講座やイベントに参加したことがありますか。

あてはまるひとつに○

有効回答数 134

「ウェルビーイング」をテーマにした講座やイベントに「2 参加したことはない」と回答した人の割合が約9割を占めている。



〔問 28 で「1」に○をつけた方にお聞きします。〕
問 29 参加されたイベントの名称または、内容について記入ください。

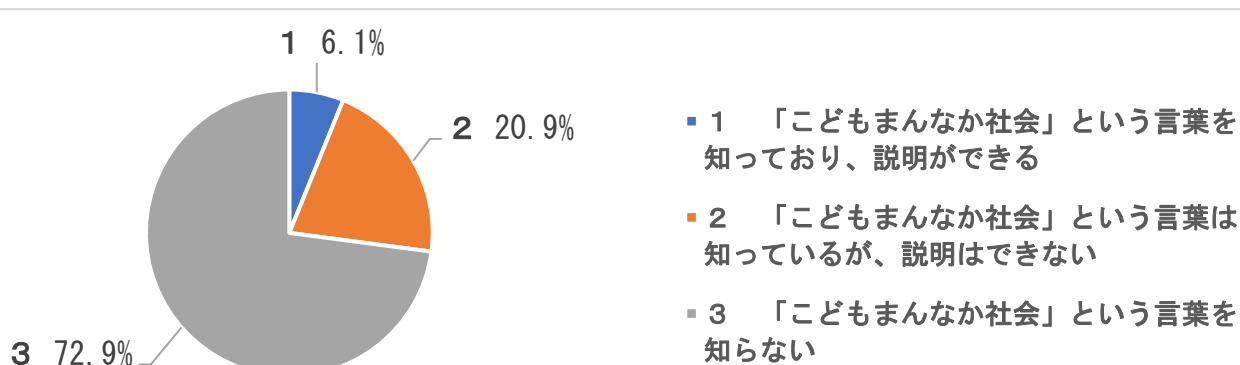
以下、記述のまとめになります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	意見
10 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
20 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
30 代	男性	講演会
	女性	記載なし
40 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
50 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
60 代	男性	お寺の説法や力強く生きる為に等
	女性	記載なし
70 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
80 代 以上	男性	記載なし
	女性	記載なし

問 30 あなたは「こどもまんなか社会」という言葉を知っていますか。
また、自身の言葉で説明できますか。
あてはまるひとつに○

有効回答数 635

問 27 の「ウェルビーイング」と同様に、「3 『こどもまんなか社会』という言葉を知らない」と回答した人の割合が 72.9%であり、言葉の認知度は低いと言える。



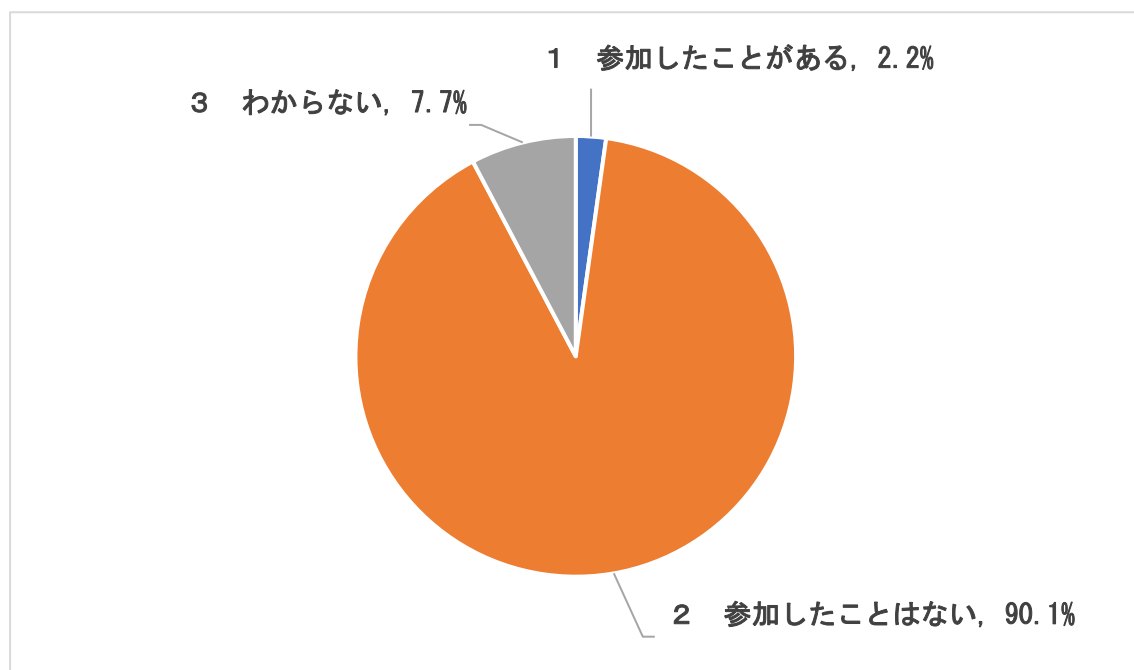
〔問 30 で「1」「2」に○をつけた方にお聞きします。〕

問 31 「こどもまんなか社会」をテーマにした講座やイベントに参加したことがありますか。

あてはまるひとつに○

有効回答数 165

問 28 の「ウェルビーイング」と同様に、「こどもまんなか社会」をテーマにした講座やイベントに「2 参加したことはない」と回答した人の割合が9割を占めている。



〔問 31 で「1」に○をつけた方にお聞きします。〕
問 32 参加されたイベントの名称または、内容について記入ください。

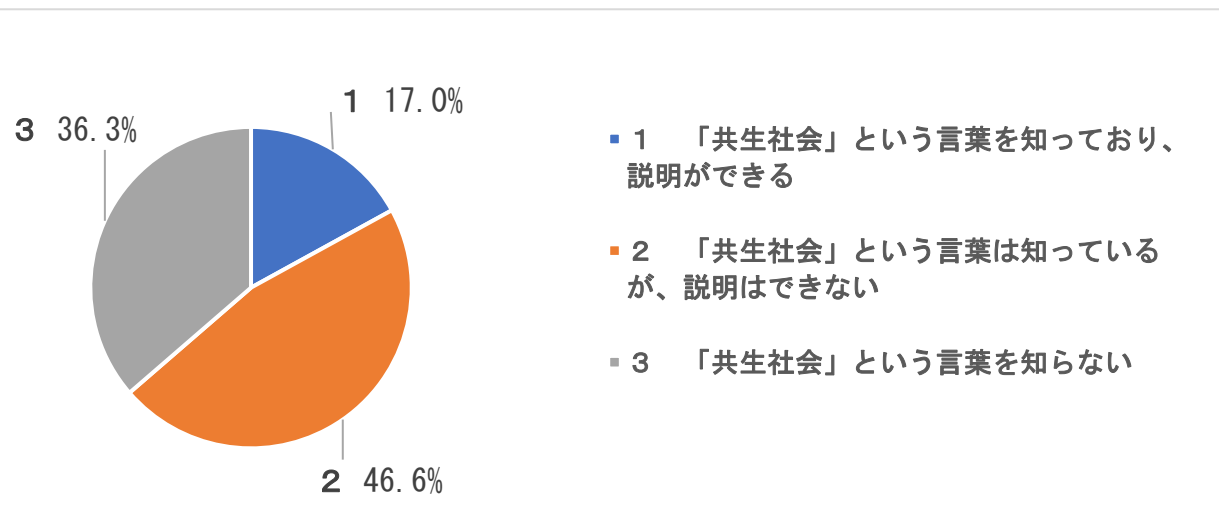
以下、記述のまとめになります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	意見
10 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
20 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
30 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
40 代	男性	記載なし
	女性	丹波市議さんが開催された 子どもまん中会議 職場の学習会
		こどもまんなか会議に参加しなかったのですが、理由としては子供をまんなかにするためには母親をまんなかにする社会にならないといけないと思ったからです。母親まんなか会議なら出たかったです。母親をまんなかにすれば自然と子どもを大切にできると思います。
50 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
60 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
70 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
80 代 以上	男性	記載なし
	女性	記載なし

問 33 あなたは「共生社会」という言葉を知っていますか。また、自身の言葉で説明できますか。
あてはまるひとつに○

有効回答数 642

問 27 の「ウェルビーイング」、問 30 の「こどもまんなか社会」とは違い、この問いでは「2 『共生社会』という言葉は知っているが、説明はできない」が 46.6%、「1 『共生社会』という言葉を知っており、説明ができる」が 17.0%となり、回答者の約 6 割が「共生社会」という言葉を知っている。



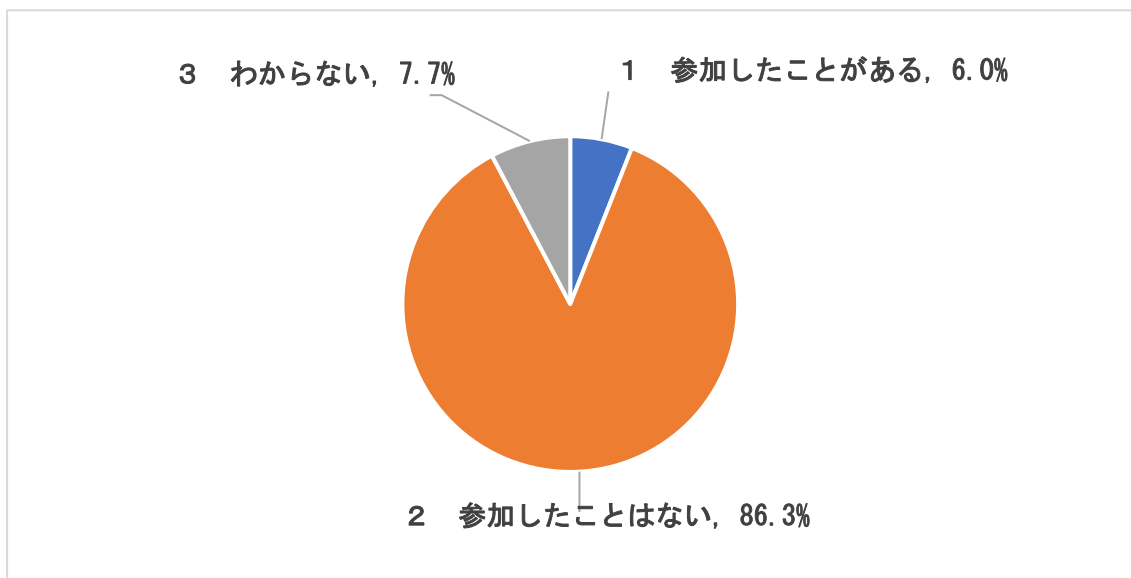
〔問 33 で「1」「2」に○をつけた方にお聞きします。〕

問 34 「共生社会」をテーマにした講座やイベントに参加したことがありますか。

あてはまるひとつに○

有効回答数 397

問 28 と問 31 同様に、「共生社会」をテーマにした講座やイベントに「2 参加したことはない」と回答した人の割合が約 9 割を占めている。



〔問 34 で「1」に○をつけた方にお聞きします。〕
問 35 参加されたイベントの名称または、内容について記入ください。

以下、記述のまとめになります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	意見
10 代	男性	共生社会とは誰もが住みやすい社会という内容
		共生の社会学(大学講義)
	女性	記載なし
20 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
30 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
40 代	男性	記載なし
	女性	男女共同参画事業の自治会行事（コンサート）
50 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
60 代	男性	講演会
		人権講座、国際理解講座、男女共同参画講座
		男女共生講座
	女性	イベント名は把握していないが、障がい児さんの施設に勤めているので、機会があれば参加したいです。
		障害者の権利について、社会参加ができるように。
70 代	男性	・ ジェンダー平等社会講演会
		・ 男女共同参画推進講演会
	女性	障害者が地域で普通に暮らせるように？
		他の市の宗教者こん話会など講演会
80 代	男性	記載なし
以上	女性	記載なし

問 36 あなたはこのような新しい言葉を学ぶためにどのような機会が必要だと思いますか。

以下、記述のまとめになります。※原文のまま掲載しています。

年代	性別	意見
10 代	男性	記載なし
	女性	記載なし
20 代	男性	そんなものはいらない。私自身、興味を持つことだけでいいと思う。
		インターネットなどで調べる。
		学校に行くこと。
	女性	まず説明・補足が必要
		ポスターや広告などで説明があったらおもしろそうだと思います。
		有名な教授や学者を招いた楽しい講演会など。(数年前に気象予報士の蓬萊さんが来てくださったときなど)
30 代	男性	地域の情報に触れる機会
		言葉を学ぶ必要は無い。何をどう学び、活かせる社会を実現することが大切
	女性	フリーマーケット等のテーマにその様な言葉を使って目に触れるようにする。何もしなくても人が来る所で使うのがポイント
		やはり学習、学べる環境が必要だと思います。
		活字を読む。
		・講演会に参加する。 ・本で学ぶ。
40 代	男性	同世代等、同じ境遇の方、もしくは人気があったり尊敬できる人から教わる機会があると、聞こうという気持ちになる。
		新聞を読む。ネットニュースでは自分の興味のあることしか読まないから。
		毎日の情報発信が必要だと思う。
		これらの言葉を使った企画などでの、広告、宣伝等による人目に付く機会が増えること。
		周知徹底媒体で。
		言葉を学ぶための機会ではなく、そういった言葉に興味を持つための意識づける機会が必要だと思う。
		・丹波市による学習計画の策定 ・誰でも学べる場の提供

	女性	新聞を読むことだと思います。ネットニュースは見ますが、抜粋されたものになりますので、「学ぶ」には少し遠いように感じています。
		まずは目にすること⇒ザイアンスの効果 最初は市からの一方通行発信かもしれませんが、情報発信（紙ベースで）していき、学校教育（学校から）子どもたちが学び、家庭に持ち帰り広めていく。大人から子どもに…と言うより、子どもから大人の方が大人も新しい言葉を学ぼうとするとします。
		発信力 SNS などを使ってまず見る。まず触れる・まず気にさせること。そしてそれが有益なことならば、人々は食いついていくでしょう。
		市としていろいろな場で発信していく。市長さんが毎回それらの語句を使って話すなど、多くの人の耳に残る工夫が必要
		市の広報や SNS で発信する。
		子育て中のため、限られた時間しかなく、学びの場へ出向くのが難しいこともある。それを考えると、託児の充実やリモートでの学習、時間にしばられない学び方があればありがたい。
		学校等、親子そろって話や知識を深める機会があればいいと思います。
		SNS での発信、広報での発信
		丹波市役所の方が毎週 1 回 or 毎月 2, 3 回でも決まった日時に新しい言葉とその意味（内容）を説明、講義、夜、有線放送をしてもらえると、興味をもって聞くことができ、時間的に家族がそろって食事をする時間帯だと、食事をしながら家族で意見を交わすきっかけにもなると思う。
		広報たんばに繰り返し出す。
		あえて学びに行く必要はない。一人ひとりの心の問題であり住み良い安定した日常生活の構築が一番先
50 代	男性	・言葉を知ることには意味はない、その理念を学ぶことが必要 ・自分にできることは何かを学ぶこと。 ・学校、地域、職場などに広げること。 ・どのようなことを目指すための言葉であるかを知り、行動を起こすことが必要
		全ての新しい言葉を学ぶ必要はない。
		関心のある人は独自に学ばれるであろうし、関心のない人は機会を準備しても参加しない。この点についても「参加する意義・目的」が明確でなければならないと思う。
		住民学習

		「知る」というきっかけを作る機会が必要だと思う。知ってもらうための機会を設けることぐらいしか思いつかないです。
	女性	新しい言葉を自ら学ぼうとは思わない。
		誰もが参加できる勉強会
		情報の発信、色々な物で（ネット、紙）今もしていると思いますが、目に留まる時は人それぞれなので、常にしていたら、多くの人が気付くときが増えてくると思う。
		どう答えていいのかわからない質問はやめてください、アンケートを出されるなら、答えやすい質問をしてください。悩み、答えたくなくなります。
		さまざまな方法で情報発信
		・ 講座やイベントに関しての情報発信 ・ 少人数でも開催できるもので回数を多くする、少人数なので交通の便の良いところで開催する。
		この言葉をタイトルにするのではなく、だれでも分かるような分かりやすいタイトルで場を作ればよいのではと思う。
		身近な場所（それぞれの自治会等）での勉強会
		聞いたことのある言葉でほとんどの人は終わる。自分に必要であれば自然と学ぶ。
		広報などで周知
		情報の発信を多くしていただき、発信に対して目で見えてわかるようにしていただけたら嬉しいです。
		新しい言葉、特にカタカナ語でテーマを語ること自体どうなのか、前述のウェルビーイングや、こどもまんなか社会など、理解しがたい言葉で語られたりしても拒否反応のほうが強い。テーマの名を付けるのであれば、もう少し考えてもらいたい。
		広報に載せてほしい。
		言葉の後に常にかっこ書きでも説明を書いておくと簡単で誰でも分かりやすいと思います。
		自分自身がいつも積極的、意欲的にならなければ、と思いました。
		まず、学校で参観日などでどうしても幅広い世代が聞かねばならないような場所でいう必要があると思う。わからないことは関心を持ちようがないので。
		新しい言葉を学ぶ事も大切だとは思いますが、今、何を行うべきなのか現状を把握し、それに対しての方向性が必要かと思います。年代別に…。

60 代	男性	インターネットの正しい使い方
		子どもや高齢者に拒絶感を与えない分かりやすい説明をあらゆる施設に設置（買い物に行けば必ずそのことばを見るとか）
		広報等での PR
		自分が知ろうとする意識が必要だと思います。そういう意識がありませんので。
		「広報たんば」に掲載する。
		・ 広報の裏表紙 ・ web
		必要ならば自ら追及していく、提供されるようなものではない。
		ネットで調べる。
		健康講座、共に生きる地域社会を作る、子ども主体の社会
		市民は必要に迫られないと学ぶことはないと思います。新聞などで知る程度に興味がある、ないのレベルだと思います。本気で市民に学んでほしいと願うなら、強制的に学ばせる機会・場を設けるしかないと思います。
		学んでしかるべきだという前題の問いだが、学ぶ必要性を感じない。
		別に要らない。
		広報誌において新しい言葉の説明と丹波市内で行う講座等の案内をされてはどうか。（既にされているかもしれませんが）
		web 学習
		必ずしも機会が必要とは思わない。
		まず、市民活動課がどのような職場（内容）なのかが分からない。丹波市職員の方々が地域の取り組んでいる活動（自治体）へ顔を出して意見が言える場を設けていただきたい。
		特に必要でなく個人で学べる。
		「ウェルビーイング」「こどもまんなか社会」「共生社会」説明書きがあれば良かったです。今回のような機会
		新聞、書籍、雑誌等の活字から。
	女性	知識や教養を学べる場や環境づくり
		新聞やインターネットの活用で学びたい。
		誰でも見ることができる新聞や自治会等の広報など、テレビ、ラジオ等で聞くことがあれば調べるきっかけとなるかも。

		近年特に横文字が多く、その言葉を聞くだけでハードルが高く「何?」と感じる方々もみられる。誰もが理解しやすいように説明することが大前提である。そのためにはいろいろな方法で丁寧に説明していく必要があると思う。(方法については、抽象的ですみません)
		いろんな世代が参加する講座、講演をする。
		各自治会で集会時等におとしていく。
		個人の知性の問題ですね。
		私は今、自治会の中でほほえみサロンでボランティアしています。午前中、一時間程度あまり難しくなく講演していただけることがありと嬉しいです。
		40年間の職場を退職し、仕事関係の研修会にはたくさん出席しましたが、これからは地域に関することや、このように新しいことを学ぶ研修会があればと思います。
		広報などで度々、特集を組んで頂くとかあると、みなさん目にするのではないのでしょうか？
		丹波市の広報にて、周知させる機会を増やす。コロナ禍後、人間関係が疎遠になりつつ、付き合いも減っていると思う。特に一人暮らしの方への対応は喫緊の課題だと思います。
		合理的配慮という言葉がこの4月から実施義務化されている。一人の発案者から事業所、自治会も知っておく必要があると知り、どのような内容がそれにあたるのか講座を予定している。それぞれの新しい言葉は自分の身のまわりに関係がなければ興味が沸かず終わってしまう。そこを根気よく毎月目にする広報からの情報発信や各自治協等へのお知らせ、講師の派遣をしていただきたい。
70代	男性	学生なら教育現場の中で学びを深めていく。現役社会人なら職場、現場で、知識の共有をはかる。リタイヤ世代ならコミュニティを通して学ぶ機会を作る。わざわざ人を集めてするのは各世代、多忙の中無理が出る。無理のない環境で、小さなことからコツコツしていくのが大事だと思います。
		言葉だけでなく、具体的な施策や活動が必要 その言葉が出てくる背景が理解されることが最も必要
		本問について自分なりに想定はできても本来の在り方方向性について学ぶ機会がない。気持ちはあるても行動に映せるにはどのようにすべきかを考える必要があると思う。
		広報たんば等で知らせてください。

		自治会の集会等、身近な集まりの中で学習の機会を設ける。
		今後あまり必要ない。
		問いに関係ないが、ネット社会やスマホ社会に乗り遅れ、テレビ以外の情報は入らず。
		学習などに参加する。
		英語（カタカナ文字）が多く、内容が理解できにくい、ある程度は理解しているが、多くの方は戸惑われていると思う。
		広報誌「たんば」等でお知らせを数回広報する。
		人それぞれが抱えている課題を話し合える場作りが必要だと思います。
		市の広報に説明してください。
		特に新しい言葉を覚える必要はないと思いますが、知っていることは大事ですので、情報として市 HP や情報誌などで発信していただければよいと思います。
		共生社会という現実にはほんとに体験して知って説明できる人は何人いるでしょう。講座や一回のみの実体験で説明できると？問 36 の本体と違ってますが。
		広告、ホームページ、広報掲示板、張り紙などで言葉を知ってもらうこと、「何かな」と皆検索するのでは。広い範囲でよく見かけ、印象付ける事
		市の広報誌などに関心を持つ。
		市の広報活動、関連するテーマのイベントの開催
		高齢のため必要ないと思う。
		27 も 30 も、言葉を知りませんでした。必要な機会は何かを答えるまでの問題で、あらゆる社会で通知、広報するほうが先かなと思いますが、私が無知なだけなのですが、いまだ知る機会すらなかった、というのが本音です。
		広報たんばに入れればいいのでは。
	女性	講演会を開いてほしい。
		自治体に専門委さんに来てもらい学習がしたい。
		住民に知らせていくためには、各自治会での情報、各施設でのイベントの時の情報等での機会
		やはり、なれ合いではなく、いつの時代も「これ何?」という新しい事や言葉に関心を持つ、それで、自分で調べることが大事

	各町内、自治会での生涯学習の機会に説明していただければと思います。
	地域活動の中で少し時間を空けていただき、知識をみんなに教えていただければ嬉しい。
	広報誌などで発信していけばいいと思います。
	学習会
	・ 広報誌などによる解説 ・ わかりやすい言葉との併用
	講座やイベント等の開催
	広報などで教えてほしい。
	新聞・テレビ・チラシ・行政、あらゆる情報を知り、自分自身いつも何事にも関心を持ち続けたい。
	ネットで自分で調べる。
	有線放送などの活用
	生涯学習に関する記事をよく見て学ぶことが大切だが、新聞もろくに見ない現状である。市民に向けて広報などで何度も(数か月)教えてほしい。
	別に何も思わない。
	今はたいていのことはネットで調べられるので特に必要を感じない。
	横文字が多すぎる。もっと簡単に、みんなが幸せに助け合える社会である様に”手をつなごう”でよいのでいいと思う。
	広報誌を通じて教えてほしい。
	丹波市の HP で説明する。
	高齢者にもわかりやすい言葉での発信をしてほしい。カタカナの言葉や横文字になるとなかなか…。
	身近なところで学べる機会が必要だと思います。
	新しい言葉があることを知る機会（本人の気持ちと）
	リラックスした場、環境でかまなくてよい。
	新しい言葉、設問等、頭に入りにくい。
	参加するという事はできませんので、新聞、テレビ、携帯などで利用しています。一応携帯で検索してみましたがむずかしいことばです。
	年齢にもよるので、70代の私には、健康とはが主で生活しています。広報等で今月の新しい言葉欄で説明がされていたら読むかも。
	もう頭脳がついていきません。老後は穏やかに暮らせたらと思っています。

80 代 以上	男性	学習の場があったら参加したい。
		わかりやすい言葉でだれでも利用出来る事
		市広報誌、リーフレット等で言葉の解説をし、あらゆる世代の目にとまるようにする。
		高齢になり運転もだんだんとむずかしくなり参加が出来ません。
		広報誌等で解説する。
		高齢により、外出する機会がないため、広報などの紙面で情報を発信していただきたいです。分かりやすく、見やすい広報等の作成を希望します。
		自分の意見を言わない人が非常に多い。誰しも良い所、欠点を持ち合わせている。長い人生困ったときに話し合える友人知人は、一日仕事以外で何人の人と話をするか、一か月に何人の来客があるか、人との触れ合いが非常に少ない、市の職員も机上の仕事以外に市民との触れ合いを真剣に考えて取り組んでほしい。新しい事や、大切なことは、積極的に行動に移してほしい。
	女性	広報たんばに書いてもらえれば読みます。
		身近な人間関係において何か問題が起こった時
		外に出て、人との交流
		高齢者は遠くへ行けないので近くで学べるようにしてほしい。
		自身の意欲の問題（体力的な問題もあります。）
		高齢者でなかなか外出できないので公共機関の情報誌、新聞等で…
		やっぱり、自分からいかなと言葉を学ぶことができないと思う。 ありがとうございました。私はもう 97 歳になったのでわからないところが多かったです。
		若い人たちと話す場、機会を設ける。
		行政無線又、たんば 805 等で多く人に教える事が必要ですね。